

村民オペラ

〈登場人物〉

鎚木輝男	(五五)	朝日村の助役
伊藤純一	(三六)	東京からの訪問者
伊藤聡美	(二八)	その妻
五十嵐幸子	(二一)	農業手伝い
砥部良太	(二一)	食料品店の息子
本多喜八	(七四)	朝日村の村会議長
宮沢圭子	(三一)	分校の元教諭
柳沢雄司	(二七)	駐在

1

一九九六年の五月某日。午後一時頃。朝日村（長野県や山形県などにある実在の朝日村とは全く関係がない架空の村）にある分校の教室内。教室の壁には時間割、児童の習字と絵が張られている。日本地図、黒板、教壇、机と椅子が三組程。アップライトのピアノ。教室は今使われていないらしく、全体に埃っぽい。朝日村の助役、鎚木輝男が伊藤純一、聡美夫婦を伴って入ってくる。伊藤純一はカメラで盛んに教室内を撮っている。

鎚木

教室はここともう二つあって……まあ、ずっとここしか使わなかったんですがね。二部屋とも物置みたいになっています。運動会の用具とか、まだごちゃごちゃ入っています……私が通っていた頃はそれでも全校で百人近くいたんですよ。

伊藤 廃校になったときは？
鎗木 よ。家庭教師のようなもんだ。ぜいたくでし
聡美 ピアノがあるわ。
鎗木 音楽室なんてしゃれたものはないから。
伊藤 体育館は？
鎗木 え？
伊藤 体育館はないんですね。
鎗木 ああ、体育館ね。つくろって話は何
度もあったんですがね。結局つくらなかった
た。雨の日は体育はなし。まあ、みんな外
で走り回る方が好きでしたし。
聡美 田舎の子ですものね。
鎗木 ええ、まあ……。
伊藤 綱、残ってます？
鎗木 ツナ？
伊藤 運動会の綱引きの。
鎗木 ああ、あの綱。あつたと思いますよ。
まあ、ずっと綱引きなんてやらなかったで
しょうが。
聡美 やらなかったんですか？
鎗木 五人ですから。
伊藤 そうか……。綱引きは無理か（笑）。
聡美 綱引き、好きなの？
伊藤 好きだよ。楽しいじゃないか……。あれ、
単純なようで結構奥が深いんだ。国際大会
もあるし、プロだっている。
聡美 綱引きのプロ？
伊藤 力のあるのが揃っていれば必ず勝つも
のじゃない。やっぱりチームワーク。呼吸
が、気持ち合わなきゃダメ。
聡美 ボートと同じね。
伊藤 そうだな。
鎗木 あの、綱もですね、みんな、知らない
ものはこちらで処分しますから。
聡美 （伊藤に）綱、いるの？
伊藤 綱だけに、ひかれる。

二人、吹きだす。鎗木、苦笑。

鈴木 大玉もありますよ。赤いのと白いの。
 聡美 純ちゃん、私、昔から不思議だったん
 だけど、どうしてあれ、赤と白なの？
 伊藤 ああ……あれじゃないか。源平の。
 聡美 げんぺい？
 伊藤 平家が赤で、源氏が白。
 聡美 ああ、そうか。さすが、ライター（口ご
 もる）……さすが、純ちゃん。
 伊藤 確かじゃないよ。
 聡美 ……あの、カブ、カ、カブラ。
 鈴木 カブラギです。
 聡美 すみません。珍しいお名前なんで。鈴木
 さんはこの村のご出身なんですか？
 鈴木 そうです。生まれも育ちも。村を離れ
 たのは大学の四年間だけです。田舎者には
 見えないですか。
 聡美 だって、訛りがないから。
 鈴木 はあ（苦笑）。
 伊藤 ここらは方言はないんですか？
 鈴木 ありますよ。地元の人間と話すときは
 ちゃんと訛っています。よそも……外の人
 と話すときは使いわけます。今は日本中ど
 こでもそうですよ。
 伊藤 バイリンガルだ。
 鈴木 でも年寄り同士がしゃべっているのは、
 私にだって何だかわからない。外国語と同
 じです。
 聡美 子供はどうなるんでしょうね。
 鈴木 どうなるって？
 聡美 子供がここに住んだら、ここの言葉が
 うつるんでしょね。私たち、子供いない
 し、当分つくる気はないんですが。
 鈴木 うつると、まずいですか？
 聡美 ずっとここにいろならいいんですけど
 ど。都会へ転校したらいいめられるとかあ
 るみたいだし。
 伊藤 そんな心配ないよ。今の子はテレビが
 あるから、訛ってからかわれることなんて
 ない。（鈴木に）そうですよね。
 鈴木 どうでしょう。当人は都会の人間にな

ったつもりでいても、陰で笑われていたか
 もしれませんか。それがこっちへ戻ってくれ
 ば、今度は都会で暮してたやつはすまして
 やがるなどといわれる（笑）。
 聡美（窓から外を眺め）校庭、広いですね。
 鍋木 プールもありますね。
 伊藤 夏は池で泳ぐんじゃないんですか？
 聡美 ここへ来る途中にあったあの池。
 聡美 水、きれいだったわね。
 鍋木 泳げません。あそこは。
 伊藤 ダメなんですか？
 鍋木 お七が池というんですが、あそこは遊
 泳禁止です。深い所でも三メートルほどで
 すが、水草に足をとられて昔から大勢溺れ
 ています。脇にお地藏さんがあつたんです
 が、気づかれませんでした？
 聡美 純ちゃん、見た？
 伊藤 いや。
 聡美 それ、水草なんですか？
 鍋木 え？
 聡美 ですから、誰かが池の底から。
 伊藤 おいおい、怪談かよ。
 鍋木 お七という娘がああ池に身を投げたの
 が由来とか。
 聡美 やっぱり：足をひっぱるのね。
 鍋木 いけないといわれても、池に入るのが
 いるんです。私の子供の頃にも、五つばか
 りの子が溺れました。
 聡美 子供だけですか？
 鍋木 え？
 聡美 大人は？
 鍋木 いたんでしょうね。事故だけでなく、
 自殺した者もいたということですよ。
 聡美 自殺？
 鍋木 ええ。
 聡美 自殺するんだ。こんな村の人も。
 鍋木 ：：。
 聡美 だって、こんなのだかなところに住ん
 でいて、ストレスなんてあるのかしら。
 鍋木 のどかですか（苦笑）。

聡美 のどかじゃないですか。だから私たち
こっちへ来ようかって。ねえ、純ちゃん。

伊藤 のどかというか。静かだよな。

鍋木 静かですか。確かに静かなんでしょう
がね。でも都会の人は、夜、うるさくて眠
れないっていいですよ。

伊藤 うるさい？

鍋木 虫の声、川のせせらぎ、風が木の葉を
揺らす音……耳について眠れないそうで
す。

伊藤 そんなもんですか。

聡美 星、きれいなんでしょう。

鍋木 今頃は九時をすぎれば、ここらは真っ
暗ですからね。真の闇です。

聡美 天の川がはっきり見えて。

鍋木 あまり気にしたことないから。空のこ
となんかは。

聡美 そういうの、私たちには懂れなんです。
幹線道路沿いに住んでいたから、騒音はひ
どいし空気も悪くて、洗濯ものは真っ黒に
なるし、純ちゃんなんてしょっちゅう咳き
込んでるし……村のみなさんにはきれい
な空気も美しい星空も静かさもありま
えなんです。私が、私たちから見ればすご
くぜいたくです。豊かなんです。お金に換
算できない豊かさ。

鍋木 換算できればいいんですが（笑）。

伊藤 蛭はいませんか？

鍋木 蛭ですか。蛭はよほど水がきれいじゃ
ないと。養殖を試みたところもあったが、
あまりうまくいかなかったようです。大体、
蛭だけで観光客は……。

聡美 あっ！

伊藤 何だよ。

聡美 鍋木さん、平家じゃないんですか？

伊藤 平家？ ああ、蛭から（笑）。

聡美 ここ、平家の落人村とか……由緒のあ
るお名前みたいだし。

鍋木 落人村なんて日本中にありますよ。弘
法大師の見つけた温泉と同じで。

聡美 コーボー、ダイシ？
伊藤 空海だよ。真言宗の開祖。
聡美 そっちなら知ってる。確か、字のうまい人でしょ。
伊藤 弘法は筆を選ばず。
聡美 温泉も掘ったのか。多才ね。

伊藤、壁に張られた児童の習字に目をやる。「明るい未来」と書かれている。

伊藤 明るい未来か……これ、このままなんですか？
鎗木 持つて帰るように言ったんですがね。備品でいらぬものは役場で引き取りますが、こういうのは……もう捨てても結構ですよ。

聡美 まずいですよ、名前があるんだし……鎗木 悟……ご親戚？
鎗木 従兄のせがれです。この村は三分の一が鎗木姓です。まあ、村中が親戚みたいなもので。
聡美 これ、このままにしたいな。雰囲気あっていい。インテリアとして。

伊藤 うーん。
聡美 （児童の絵を見て）こっちもいいじゃない。この絵も……。
伊藤 何の絵だろうね。人が大勢、輪になつて……。

聡美 お祭り？
伊藤 ああ、そうか。まん中に塔のようなものがあるが、これ、櫓か。

聡美 櫓には見えないけど。

伊藤 （鎗木に）お祭りですかね？

鎗木 子供の絵のことは、ちよつと。

聡美 櫓じゃないわ。

伊藤 （鎗木に）やっぱり櫓ですよ、夏祭りかなんかの？

鎗木 さあ、何とも。

聡美 これ、もしかして……。

伊藤 わかった！
 聡美 びっくりした。
 伊藤 わかったよ。
 聡美 だから、何？
 伊藤 これはピン。画鋏だよ。
 聡美 画鋏？ 画鋏って……。
 伊藤 ほら、こここのところを見て（日本地図を指して）。ここに画鋏が刺さっている。
 聡美 それが？
 伊藤 何だと思う？ これ、この村の位置なんだよ。（竊木に）そうですよ？
 竊木（地図を見て） まあ、大体、このへんですかね。
 伊藤 ほら。
 聡美 ほらって？
 伊藤 わからないかな。だからね、この塔みたいな、櫓みたいなものは画鋏なんだよ。巨大な画鋏のまわりに大勢の人が集まっているというわけだ。
 聡美 これ、画鋏なの？
 伊藤 そう。
 聡美 そんな大きな画鋏はないわ。
 伊藤 前衛。シュールリアリズム。
 聡美 小学生の絵よ。
 伊藤 これを描いたのは、ただ者じゃない。
 聡美 馬鹿みたい。
 伊藤 じゃあ、聡美は何だっていうんだい。
 聡美 これは……。いいわ、もう。
 竊木 ……あの、お二人はここをホテルに。
 伊藤 ペンションです。
 竊木 ペンション。
 聡美 ベッドルームにはかなり手を入れなきゃいけないと思うんですが、食堂やプレイームにはこのままの、この教室の感じをそのまま活かすつもりです。
 伊藤 このまま？ じゃあ、みんな同じ方向を向いて食事をするの？
 聡美 机を動かすわよ。
 伊藤 まるで給食の時間だな。

聡美 そういうメニューもいいわね。昔を懐
 かしんで。
 伊藤 給食の時間にはあまりいい思い出はな
 いなあ。
 聡美 好き嫌い、多かったんでしょ。せっか
 く学校が使えるんだから、セールスポイン
 トにしなきゃ。陶芸教室や草木染もやりた
 いし。
 伊藤（鍋木に）どうなんですか？
 鍋木 え？
 伊藤 役場としてはどうなんでしょう。使い
 方に関して、そういうのはまずいとか。
 鍋木 それはもうご自由になさってください。
 村としてはせいぜい寄り合いか作業場に
 使うぐらいしかあてがありませんので。そ
 ちらで借りていただければ、それにこした
 ことはないわけで。それで村の活性化につ
 ながってくれば……。
 伊藤 ただみたいなお金で貸していただける
 のに、こう言うのもなんです。僕らの考
 えている待されても困るんです。僕らの考
 えているペンション、一日に二組程度の客
 にしたいんです。ですから多くても八人く
 らい。僕ら夫婦で十分やれますからアル
 バイトもいらないし……村に落とせる
 お金なんてたいしたことないですよ。
 聡美 野菜も作ります。この校庭で。
 鍋木 畑にしますか。
 聡美 まずいですか？
 鍋木 かまわんですが、相当固いですよ。
 掘りかえすの、たいへんだ。
 聡美 のんびりやります。
 伊藤 あの、くだいようですが、この分校、
 また使うようになるなんてことはないで
 しょうね。
 鍋木 ないです。あったらうれしいんですが、
 百パーセントないです。子供たちは隣町
 の本校に行きました。これでこの村には小
 学もなくなくなりました。私の子供の頃は
 中学校もあつたんですよ。

聡美 村の人口、そんなに減っているんですか？

鎬木 減りました。でもそれ以上に深刻なのは高齢化です。この村は六十五歳以上が三分の一を占めます。まあ、日本中の田舎が似たようなものでしょうが。

伊藤 姥捨山現象。

聡美 (たしなめて) 純ちゃん。

鎬木 その通り。だからこの町や村でも若い人に住んでもらえるなら何だつてしま

すよ。それこそなりふりかまわずだ。嫁不

足だつていうんで、田舎暮らしに興味のあ

る都会の女性とのお見合いの企画を立て

たり：：でも、そんなのうまくいくわけが

ない。豊かな自然の中で暮したいなんてき

れいごと言ったって、現実を見ればたちま

ち嫌になります。夢も覚めます。彼女らは

自然の中で楽に過ごしたいだけ。お客さん

でいたいだけ。自然の中で暮すということ

は不便に耐えるということですよ。退屈さに

耐えるということですよ。結構厳しいですよ、

田舎暮らしは。

聡美 興味本位でなく、本当に田舎で暮したいっていう人もいるはずですよ。結婚は別にしても。

鎬木 年配のご夫婦には真剣な方もいるんですよ。でもお年寄りが増えても、医療や介護で対応できないのが現状ですよ。だから正直、大歓迎とはいえない。

伊藤 外国人は？ 花嫁募集とか、しないんですか？

鎬木 そういうの、やってるところもありますね。

聡美 花嫁募集？

伊藤 知らないの？ 東南アジアの貧しい村

に行つてさ、日本の農家にお嫁に行きませ

んかつて募集をかけるのさ。

聡美 それで来るの？ 日本まで。

伊藤 中には来る人もいます。向こうと比べれば日本は格段に裕福だ。

幸子　　こんにちは。
鎗木　　こんにちは。おまえら、何だ、
良太　　こんなところ。おまえら、何だ、
良太　　俺たちの母校だし。おまえら、何だ、
鎗木　　何が母校だ。おまえら、何だ、
言いやがって。おまえら、何だ、
良太　　ラブホがわりに。おまえら、何だ、
鎗木　　金がないなら、どこぞの納屋でやれ！
幸子　　助役さん、ひどい！
鎗木　　なら二人で何の寄り合いだ。幸子、母
ちやんに言いつけてやるぞ。真昼間から分
校で良太と乳繰り合っていたって。
幸子　　やめてください。こんなのと噂になっ
良太　　たら、私、嫁にいけない！
鎗木　　良太、おまえ、うちの商売手伝わなく
ていいのか。
良太　　配達は全部済ませました。
鎗木　　あやしいもんだ。
良太　　こちらは？
鎗木　　おまえらに關係ない。
聡美　　伊藤です。こっちは主人。
伊藤　　よろしく。
幸子　　五十嵐幸子です。分校を買いにきた人
でしよ。ホテルにするって。物好きなのが
いるって母ちゃんが：すみません。物
聡美　　借りるのよ。ペンションにするの。物
好きかなあ。
幸子　　ペンションですか。私、清里のペンシ
ヨンに行ったことあります。
良太　　誰と？男か？
幸子　　うるさいわね、和美たちとよ。卒業旅
行。
聡美　　よかった？
幸子　　ええ。でも夕食がフルコースで、ナイ
フとフォークだから、まいつちやった。
良太　　田舎もんが。
幸子　　うるさい。

聡美 うちはそんな堅苦しいのにはしないつもり。
 良太 俺は砥部良太と申します。ペンション、いいと思います。オツケーです。うちは酒屋やっておりますんで、開業のあかつきにはぜひひごひいきに。
 幸子 調子いいやつ。
 聡美 造り酒屋？
 良太 いえ、販売だけ。
 幸子 カップ麺やイワシの缶詰も一緒に売っているようなチンケな店ですよ。
 聡美 ワイン、置いてる？
 良太 ワインは……ここの人間はワインはやりませんから。焼酎なら麦でも芋でも。
 幸子 ペンション、いつからですか？
 伊藤 まだ下見にきたばかりだよ。
 幸子 楽しみにしてますから。
 鍋木 おい、それでおまえら、ここへ何しにきたんだ！
 良太 だから、あれです。ソンペラの練習。
 鍋木 何だ？
 幸子 オペラですよ、村民オペラ。
 良太 略してソンペラ。ムラオペというやつもあります。
 鍋木 そんなもの、略すな！
 聡美 ソンミン、オペラって？
 幸子 この村でオペラやるんです。オペラというか、ミュージカルみたいなものですが。題名は『お七と三郎』。
 伊藤 へえ、すごいねえ。
 幸子 宮沢先生って、この分校にいた先生が、今年から本校に移ったんですけど、その先生の発案で。台本も書かれて。
 良太 美人です。
 伊藤 村民オペラねえ。
 幸子 市民オペラとか市民ミュージカルはあるけれど、村民オペラは聞いたことないから、もしかすると日本で初めてかも。
 良太 テレビの取材とかないですかね。
 伊藤 NHKがくるぞ。

良太 来ますかね、NHK。すごいな、そり
 や。
 良太 来ないよ、そんなもの。
 聡美 あなたたち、そのオペラの出演者なの
 ね。
 幸子 はい、私は一応主役です。
 良太 村には若い女が少ないですから、こん
 なんでも主役になれます。競争率が低いわ
 けです。
 幸子 うるさい、村人3が！
 聡美 村人さん？
 良太 村人1、2、3の3です。
 聡美 ああ、村人3ね。
 伊藤 村人が村人をやるわけだ。しかし、1、
 2、3つてのはあんまりだよな。名前ぐら
 いつければいいのに。吾平とか茂作とか。
 鍋木（苦々しい顔で）茂作……。
 良太 村人3はまだいい方です。台詞も多い
 んです。全部で三百五十二字あります。句
 読点も入れて。義雄さんなんか村人5です
 し、台詞も……。
 聡美 ヨシオさん？
 良太 笹の塚新田の義雄さんです。うちの本
 家の。
 幸子 知らないわよ（笑）。
 良太 義雄さんの台詞は全部で二百十七字な
 んです。
 伊藤 句読点も入れて。
 良太 ええ。だから義雄さん、俺にあたるん
 です。何で分家の良太の方が本家の俺よ
 り台詞が多いのかって。それで圭子先生に
 もっと台詞を増やすように言ってくれつ
 て。（幸子に）俺に言わせるんだよ。自分
 で先生に言えばいいんだ。
 幸子 でも言ったんでしょ。
 良太 しょうがねえだろ。母ちゃんが言っ
 て、やれって、うるせえんだもの。母ちゃん
 は何かっていうと本家の……。
 伊藤 それで増えたの？
 良太 何とか二つ増やしてもらったんですが、

鍋木 良太。それでもまだ俺の方が多いです。
 良太 はい。
 鍋木 くだらん話はもういい。それでここで何をしたいんだ。
 良太 ですから台詞も歌もいっぱいあるんで、今日は練習日じゃないけど稽古をしたいっていうんで。
 鍋木 おまえは？
 良太 まあ、つきあいというか。
 幸子 つきあえなんて、私、言っていないよ。
 良太 そりゃねえぞ。
 鍋木 練習なら家でやれ。
 幸子 うちにはピアノがないし、ばあちゃんに嫌がる。豚をしめたような声、出すなつて。ばあちゃんには美空ひばりと天童よしみ以外認めないんです。
 聡美 主役なんてすごいね。
 幸子 お七です。お七の悲恋物語。つまり、悲劇のヒロインなんです。
 良太 お七は可憐な美女という設定ですが、ここは勘弁してもらって。
 幸子 ミス早乙女の私がやってどこが悪い。
 良太 けつ、ミス早乙女なんか、この村だけのコンテストじゃねえか。それでもって応募者のほとんどが中学生とくる。
 幸子 ミスコン応募者の低年齢化はどこでも一緒だ。
 伊藤 オペラだろ。問題は声だよ。美人じゃなくてもいい。プロの歌手なんてさ、みんなこんなだよ（太っているというしぐさ）。
 幸子 どうせ太ってます。
 良太 その割に胸はない。
 聡美 ねえ、どんな話なの、そのオペラ。
 幸子 それはですね……。
 鍋木 （さえぎって）伊藤さん、オペラの話はまたの機会に。すみませんが、私もこの後いろいろなあるんで。今日は校舎を見てもらうということですから。

聡美　でしたら、私たち勝手に見させていた
だきますから、お仕事にお戻りください。
この方たちもいますし……帰りに役場に
寄りますから。

伊藤　そうだな。

鍋木　いや、その、今日はこれから消防団と
の打ち合わせや……終わり次第戻ってき
ますんで……おい、おまえら。

幸子　ご案内しておきます。

良太　おまかせください。

鍋木、伊藤夫婦に一礼して退場。

良太　（いなくなったのを確認して）行った、
行った。どうせたいした用事でもなくせ
に……助役、鍋木輝男っていうんですよ。

聡美　え？

良太　名前ですよ、鍋木、輝男。

聡美　それが？

良太　わかりません？　カブラギテルオ、カ
ブラギテルオ、カブラギテル、アブラ
ギテル。

聡美　アブラギテル？

良太　脂ぎってる。

聡美　ああ……ひどいわね（笑）。

幸子　助役も、もつとしっかりしてくれない
と。

伊藤、聡美、笑う。

幸子　おかしいですか？

伊藤　ずいぶんえらそうに言うから。

幸子　私だけの意見じゃないです。この村、
ジリ貧でしょ。合併もあるし。リーダーに
はしっかりしてもらわなきゃいけないの
に。

良太　頭、固いし……薄いけど。

幸子　村民オペラだって、助役は賛成じゃな
かった。渋々です。めんどろなだけで何に
もならないって。

良太 金にならない。
聡美 でもそういう文化的なことって、儲かるものじゃないでしょ。
幸子 村の財政ひどいから、しょうがない面はあるけれど。
伊藤 彼の肩を持つわけじゃないが、助役という立場なら財政に寄与することに興味があるさ。
良太 でもあの人は、それで一度大失敗してる。村に大損をさせて、みんなに迷惑かけて……。
幸子 (たしなめて) 良太。
良太 ほんとのことだ。
幸子 よその人に。
聡美 あら、よその人じゃなくなるかもよ。ここへ越してくれば、私たちも村人よ。
伊藤 今、人口は？
良太 八百人くらいかな。
伊藤 じゃあ、僕が村人801で聡美が802だ(笑)。
聡美 大損って何をさせたの？

良太、幸子、口ごもる。

聡美 もしかして、リゾート？
良太 よくわかりますね。
聡美 だってここへ来る途中にゴーストタウンみたいなリゾートマンションがあつたし、造成途中でやめてしまった禿山も。それにあの観覧車。
幸子 村の名物になりました。ここからだつて見えますよ。

伊藤と聡美、良太の示す方向を見る。

聡美 ほんと。
伊藤 しかし、でかいね。
幸子 高さ八十メートルあるそうです。
聡美 あれ、動くの？
良太 動きませんよ。

幸子　ほんとは取り壊さなきゃいけないんでしょうが、その費用がないんです。

良太　いつかぼろぼろに錆びて、台風でも来たら崩れるんじゃないかな。

聡美　あれがリゾートの？

幸子　そうですね。夢の残骸です。周囲の町も巻き込んだ大掛かりな構想だったようです。ですけど、何といてもこの村が中心でした。

良太　エンゼルビレッジ。

幸子　リゾート計画の名前です。

伊藤　天使の村か。

良太　笑っちゃいますよね。

幸子　すごい計画だったそうです。デイズニールランドみたいな大きなテーマパークがあって、ゴルフ場が二つあって、ホテルにショッピングセンターに高級別荘地に、コンド、コンド……。

伊藤　コンドミニウム。

幸子　そう、それ。総面積がなんと五百ヘクタール。

良太　田舎風に換算しますと、約五百町歩。

伊藤　東京ドーム、百個分かな。

良太　俺、修学旅行でドームに行きました。巨人戦じゃなかったけど。

聡美　すごいけど……ほんと？　いつの話？

幸子　そんな昔じゃないですよ。六、七年前の話です。

良太　俺らが中学生の頃です。

幸子　五千億って計画だったそうです。

聡美　五千億！　五千億って、ちよつとした国の国家予算よ。

伊藤　あったんだよ。バブルの時代にはそういったとんでもない、桁違いの計画が日本中にごろごろあった。今から考えれば狂っていたとしかいいようがないがね。

聡美　こんな村に……ごめんなさい。

幸子　いいんです。私もそう思う。でも当時、村中が浮かれてたんですよ。リゾートに反対の人は少なかった。いても相手にされなかったんです。

良太　うちの親父だって、土産物店のテナントに応募するってはりきっていたし。別荘ができれば商売も大きくなるって。

幸子　うちなんか、テーマパークの予定地に畑があつたものだから、それを売ったらど土地が億になるっていうんだから、頭も変になりますよね。軽トラに乗ってた兄ちゃん、ポルシェだ、フェラーリだって（笑）。私だって、東京の大学に行つて、マンション買つてもらつてなんて……。

伊藤　どこが来たんだ？

良太　え？

伊藤　東京から。

良太　えーと、東洋……。

伊藤　東洋リゾート開発。

良太　そう、それです。

幸子　村と第三セクターをつくりました。エンゼルビレッジセクター。通称、エビセン。聡美（伊藤に）第三セクターって、町や村が民間の企業と協力して事業をする、あれ？

伊藤　そう。つまり、何かあつたときも互いに責任を負うってことだ。

幸子　その旗振り役がさっきの助役です。助役の家はここの名主ですし、土地も一番持つてる。だからみんな疑うことなくついていったんです。

伊藤　そういう時代だったんだ。

良太　説明会つてのが公民館で何度も開かれて。まあ、俺らは行かなかつたんですが、ジオラマっていうんですか。精巧な模型を見せられて。

幸子　あれ、まだ役場に残ってるって。敏江が言つてた。

良太　未練たらしいなあ。

幸子　有名な評論家の先生も来て、講演をしました。

良太　リゾートはいい。リゾートは儲かる。

幸子　リゾートで過疎の村も生き返る。豊かになる。

良太 雇用も増える。

幸子 リゾートをやらないやつは馬鹿だ。

良太 こんなチャンスを見逃すやつにはバチ

幸子 があたる。まるでリゾート教の教祖様。
るなら間違いない。村の連中はみんな、バ
ラ色の未来がやってくるものと信じてい
ました。

伊藤 (「明るい未来」と書かれた習字を見て)
まさにあれだな。

幸子 都会へ働きにいった連中も帰って来
ました。

良太 本家の義雄さんもそうです。名古屋の
自動車工場に期間工でいったのに。

幸子 工事が始まれば建設現場で仕事はある
だろうし、リゾートが完成すればホテルや
テーマパークで雇ってもらえる。

良太 先のない百姓なんてやってられん。み
んな、田んぼも畑もほったらかしで浮かれ
てた。リゾートってのはどんな食い物なん
だ、なんていったジイさまやバアさまま
でリゾート、リゾート、リゾート音頭。

伊藤 ところがバブルがはじけた。日本中の
リゾート計画が中止になったり、縮小され
た。開業していたところも続けることが困
難になった……もともと無理だったんだ
よ。日本人が今の倍くらい休んで、今の倍
くらいの収入がなければ成立しなかった
んだ。それを馬鹿役人がリゾート法なんて
馬鹿な法律をつくったものだから。

幸子 それでもうちだけは大丈夫と助役は思
っていたようです。

良太 そう思わなきややれんでしょ。どっぶ
りつかっていたんだから。やめられない、
止まらないです(笑)。

聡美 え？

良太 エビセンだから。

伊藤 第三セクターの名前。

聡美 ああ、なるほどね。

幸子 村の年間予算の二十倍、つぎこんでい

良太 たんです。銀行に借りて。
 良太 れが後手後手になつて。
 幸子 ら。村中ぴりぴりして。破綻が決まつてか
 で借金していた人もいたから。
 良太 サ―企業におしかけたらしいけど。
 幸子 全く相手にされず。
 良太 早い話が、詐欺にひつかつたみたい
 なものです。
 伊藤 それでも鍋木氏が助役なの？
 幸子 他にやり手がいらないんです。借金だら
 けで合併も拒まれる村なんですから。
 聡美（児童の絵を指し）ねえ、あの絵なんだ
 けど。まん中のあれ、観覧車じゃない？
 幸子 これですか：：：そういわれれば。
 良太 これが観覧車？　そうかなあ。
 幸子 そうだよ。
 伊藤（良太に）画鋲だよな？
 良太 画鋲？　画鋲って、あのとめるやつ？
 伊藤 これが？　それはちよつと：：：。
 聡美（幸子に）乗ったことある？
 幸子 ありません。
 聡美 まだ動くのかな？
 良太 動かないでしょ。だってもう電気も来
 てないし。
 伊藤 しかし、相当高いなあ。
 聡美 この人、高所恐怖症なんだって。
 幸子 ほんとですか？
 伊藤 飛行機も嫌い。
 幸子 へえ。
 伊藤 わざわざ高い所へ上がるやつの気がし
 れない。

聡美、観覧車の方向に目をやる。

幸子 あの、職員室。
 伊藤 え？

幸子 職員室、ご案内します。
伊藤 あ、ああ……おい、聡美。
聡美 ……はい。

良太、幸子、伊藤、聡美の順で退場。
暗転。

2

村役場の一室。同日午後一時半頃。
リゾート計画のジオラマ。中央のテ
ーマパークには観覧車の模型もつい
ている。その前に立つ鏑木助役。
村会議長の本多喜八はソファに。

本多 未練たらしい。

鏑木 え？

本多 そう言ってるやつもいる。

鏑木 あなたもですか？

本多 俺は言わんよ。言う資格もない。同じ

穴の貉だから。

鏑木 別の言い方はないんですかね。

本多 言い方を変えたって同じだ。それで隣

町の連中は何だっていうんだ。

鏑木 いい顔はしませんよ。するはずがない。

あっちだって景気はよくない。うちのよう

な借金まみれと一緒になりたくないです

よ。議会も反対してる。

本多 急先鋒は議長の石川だろ。

鏑木 らしいですね。

本多 ……あの頃は、おこぼれにあずかろう

ってんで、もみ手して俺の所へ擦り寄って

きた野郎が。

鏑木 巻き込んでやればよかったですね。

本多 そうだな。そうすりゃあいつらも一蓮

托生。同じ泥の船だった。

鏑木 ……。

本多 条件付けてきたのか？

鏑木 到底受け入れられないことばかり。

本多 無条件降伏しろってか？
 鎚木 ことわるならそれでいいっていう腹な
 本多 んですよ。
 本多 畜生、よせよせ、もう。合併なんてし
 なくっていい。
 鎚木 県の役人に釘指されてるんです。合併
 できなきゃ、財政再建団体になるって。
 本多 何だ、そりゃ？
 鎚木 早い話が破産ですよ。
 本多 破産って、村も破産するのか！
 鎚木 しますよ。
 本多 破産するとうなるんだ：あ、借金
 がなくなるのか。
 鎚木 なくなりません。
 本多 個人の場合、自己破産すればさ、なく
 なるんだろ。
 鎚木 そうはいきませんよ。とにかく徹底的
 に歳出を削減されるんです。役場の人間は
 半分以上にされ、給料も半分。施設は売り
 とばし、福祉も公共サービスもなくなり、
 そのかわり水道代をはじめ公共料金の類
 は大幅値上げ。
 本多 何だ、そりゃ！
 鎚木 議員も：。
 本多 議員はどうなる？
 鎚木 同様です。議会なんて、いらなくなる
 かも。
 本多 何言ってるんだ！こ、この国は議会
 制民主主義の国だぞ。寒村といえども、議
 会が必要だ。
 鎚木 何を決めるんです？決めることなん
 てなくなりますよ。何もかも国に管理され
 ちゃうんだから。要するに、自治権をとり
 あげられるんです。
 本多 そこまでされるのか：。
 鎚木 そうしてひたすら借金を返すんです。
 子々孫々、何十年にもわたって、いや何十
 年じゃきかないな、百年くらい：。
 本多 子々孫々：。
 鎚木 それでも返せるうちはいい。若い連中

から先にみんな村を離れる。どこへも行く
あてのない年寄りだけが残る。その年寄り
が死に絶えれば……。
本多 何とかならんのか。
鎗木 何とかしたいですよ（話しながらジオ
ラマをいじる）。
本多 よせ、それはもう！ 確かに未練たら
しいわ。他の町や県の連中が見たら何を言
われるか。燃やしちまえ！
鎗木 これ、つくるのにいくらかったか覚
えてないんですか。
本多 ……。
鎗木 五百万。
本多 これが？ 知らんぞ。
鎗木 知らないわけないでしょ。ちゃんと議
会を通したんですから。
本多 五百……。

駐在の柳沢雄司が入ってくる。

柳沢 助役。
鎗木 ああ、どうだった？
柳沢 わかりました。
鎗木 それで？
柳沢 （本多を気にして）ええ……。
鎗木 いいよ、本多議長は同じ穴の貉だから
（笑）
本多 何だ、雄司。おまえ、いつから助役の
岡っ引きになったんだ。
柳沢 おかっぴきって……。
本多 岡っ引きだろうが。平巡査が同心でも
あるまい。
鎗木 何者なんだ？
柳沢 それが驚いたことに……。
本多 おい、何の話だ？
鎗木 東京から分校を見にきたやつらがいる
んです。夫婦で。
本多 廃校になったやつをか？ あんなもの
鎗木 どうするんだ。ペンションにしたいって。

本多 ペンション？ ああ、若いやつらが泊まるラブホテルみたいな。
 柳沢 違いますよ。
 本多 洋風民宿です。
 柳沢 民宿？ 物好きなのもいるもんだ。こんなところで。
 柳沢 やりませんよね。変です。あやしい。
 本多 そう。そこ。柳沢巡査に身元調査を依頼したというわけです。
 本多 素性がわかったのか？
 柳沢 県警のつてを使いました。
 本多 柳沢の三男坊もやるもんだ。
 柳沢 やるときはやります……それであの男ですが、東京都港区青山在住の伊東純一。株式会社グローバルネットワークの代表取締役です。
 本多 グローバルネット……。
 本多 何だ、それ？
 柳沢 ITです。IT企業。今、注目を集めている会社です。株価もすごいですよ。
 本多 知らねえな。
 柳沢 要するに、すぐ儲かっている会社つてことです。
 本多 そんな会社の社長さんが何でこんな村へお忍びでやってくるんだ？
 柳沢 さあ。
 本多 (本多に) 名刺、もらったんだろ？ そうなってるのか？
 本多 (青山三丁目、伊藤純一。この名刺では、保険の代理店をやっていること。)
 柳沢 その住所、氏名で県警の友人に調べてもらいました。間違いないです。
 本多 でも肩書きは嘘なんだろう。なぜ、偽の名刺までつくって身分を隠すんだ？
 本多 知りませんよ。
 本多 ペンションをやることを知られたくないのか？
 本多 ペンションは口実でしょう。どうもそんななみみっちい商売をする人間じゃなさ

そうだ。
 本多 何かでかいことを企んでるのか、その
 IT 野郎は。
 鋤木 企んでるんでしょね。でも我々にと
 本多 そんなことがわかるのかね。
 鋤木 何かするつもりなんですよ、この村で。
 何かはわからない。でもさぐりを入れてい
 る。部下にやらせず、自分の目で確かめよ
 うとしている。慎重派だな。
 本多 リゾートか？
 鋤木 何をするやら、何をつくるやら。だが、
 投資には間違いないでしょう。
 本多 投資ということとは……この村の土地を
 買うということか。
 鋤木 必要になるかもしれませんね。
 本多 やっぱリゾートじゃないのか？
 鋤木 リゾートは懲りたんじゃ？
 本多 懲りてるさ。だがな、日本中が撤退し
 た今だからこそ逆に狙い目。そう思ったん
 じゃないか。そうだ、きつとそうだ。さす
 がに目先のきく人間は違う。さすがIT。
 鋤木 本多さん、全然懲りてませんね(笑)。
 本多(つぶやく)地面をほじるということか。
 鋤木 え？
 本多 いや、何でもない。
 柳沢 とにかく金があります。半端でなく。
 株 価 だけでもうん千億。
 本多 うん千億！
 鋤木 それで女の方は？
 柳沢 そっちは……秘書なんかじゃ。
 本多 女連れなのか？
 鋤木 夫婦ということですが、ありや違うな。
 柳沢 夫婦同然だったりして。
 本多 おい、いいのか。
 鋤木 何ですか、急に。
 本多 お相手しなくていいのか。そんなVI
 Pをほうっておいて。もしかすると、村を
 救ってくれるかも知れないんだぞ。そのお
 二人、分校を勝手に見て回ってるのか？

鍋木 良太と幸子が案内してますよ。

本多 良太？

柳沢 丸富商店のせがれ。

本多 ああ、砥部の馬鹿息子か。

柳沢 幸子は五十嵐さんのこの末っ子。ミ

ス早乙女になった。本多さん、審査員だっ

たでしょ。

本多 そんなの、覚えとらん。で、そいつら

何で分校にいるんだ。

柳沢 ラブホテルの金が惜しいんじゃ。

鍋木 ……。

本多 そんな連中にまかせて、おかしなこと

をペラペラやられたらどうする。せつかく

のチャンスがふいになるぞ。ここは助役が

ついて、しっかり説明しなきゃ。

鍋木 やり手の実業家が身分を偽って接近し

てきた。十分下調べもしているはずです。

お追従たれてもすぐばれる。かえってマイ

ナスです。ここは知らないふりをしながら

出方をうかがう。

本多 助役がそういうならいいさ…俺、ち

よっと用を思い出したから、失礼する。

本多、退場。

鍋木 何が用だ、狸が。

柳沢 用じゃないんですか？

鍋木 相談にいったんだよ、親分の所へ。

柳沢 うまい話は逃さない。親分の所へ。

鍋木 自分だけよければいいんだ、あいつ

は。

柳沢 よそ者のくせに。

柳沢 本多さんはよそ者じゃないでしょ。

鍋木 本多家なんて、お国替えのときに殿様

にくつついてきた連中だ。

柳沢 お国替え…：いつの話ですか？

鍋木 家光公の時代だよ。

柳沢 イエミツ？

鍋木 三代将軍、徳川家光。

柳沢 そんな昔の。

鍋木 昔じゃない。それより、さっきの情報、

大丈夫なんだろうな。

柳沢 間違いないです。

鎚木 ……。

柳沢 うまく食いついてきますかね。

鎚木 もし、うまい話になったら。

柳沢 え？

鎚木 うまい話になったら、役場で使ってや

るから。駐在で終わりたいくないだろ？

柳沢 よろしくお願いします…：では。

鎚木（呼び止め）おい、雄司。

柳沢 はい。

鎚木 この村に吾平なんて名のやついたか？

柳沢 吾平？ 聞いたことないですね。

鎚木 茂作は？

柳沢（笑って）いませんよ。

鎚木 だよな。

柳沢 どうしたんですか？

鎚木 何でもない。

柳沢、退場。

鎚木、ジオラマの前に立つ。

鎚木（客席に向かって）…：エンゼルビレッジは…：エンゼルビレッジは、エコロジカル、ライブタウンです。

緑や水を大切にし、自然との共生をはかるまち、楽しさにあふれ、日々新しい発見のあるまち、人々が集い、暮らし、遊び、学ぶまち、微笑みのたえないまちです。五百ヘクタールに及ぶ計画地は大きく三つのエリアに分かれています。テーマパークとタウンセンターを備えるエリア。テーマパークには近未来的な体験型施設とオールドデイズの遊園地の二つがあります。なかでも遊園地の観覧車は国内三番目の大きさを誇ります。リゾートライフを満喫するエリアにはホテル、コンドミニアム、ロッジ等の多彩な宿泊施設、ショッピング施設、スポーツ、カルチャー施設を備え…：乗馬施設や観光農園ではカントリーライフを

…：カントリー…：何が吾平だ。何が茂作だ。あいつら、なめやがって…。

暗転。

3

教室。同日午後二時頃。

ピアノを弾く幸子。村民オペラ『お七と三郎』のメインテーマ。

幸子（弾き終えて）…：どうですか？

聡美 いい、すごくいい！

伊藤 いい曲だ。これ、分校の先生が？

幸子 圭子先生は音大出ですから。私、演劇部だったからそっちの方は少しかじったけど、歌が…。

聡美 そんなことないでしょ。

伊藤 どんな話なんだい。

聡美 悲恋物語なのよね。

幸子 舞台はある小さな村。

伊藤 ここみたいなの？

幸子 ええ。時代は…：たぶん鎌倉か室町時代頃なのかな。

良太 侍が出てくるし、そんなもんです。まあ、俺の役は村人ですから、時代考証も何

もないですが。

幸子 その村にあるとき都からお役人と偉いお坊さんがやってきまして、ここにお寺を建てると。それも、そんじょそこらにある規模ではありません。西と東に五重の塔を配し、真ん中に金堂、後ろに講堂。ぐるつと回廊で囲むというすごいもの。

伊藤 法隆寺みたいだな。

良太 金堂には大仏様。門の左右には仁王様

が立つという豪華版。

幸子 もう村は大騒ぎ。大寺院建立のため、村人総出で工事にとりかかります。それこそ、田も畑も打ち捨てて。

良太 最初にとりかかったのが五重の塔。その
 幸子 の高さ日本一。
 若き大工の棟梁、三郎と村の美しい娘お七
 が恋仲になります。
 良太 ところが、五重の塔がもうじき完成と
 聡美 いう頃、役人と坊主が姿をくらます。
 幸子 お上から中止の沙汰が出たということ
 ですが、それでは、ただ働きをさせられた
 村人たちはおさまらない。
 伊藤 その怒りの矛先が大工の棟梁、三郎へ。
 良太 よくわかりますね。
 伊藤 三郎はどうなるの？
 幸子 行方知れずに。
 聡美 ……。
 伊藤 それでお七が悲しみのあまり池に身を
 投げる。と、五重塔が突如がらがらと崩れ
 る…：どうだ、そんなところだろう。
 幸子 そうかも。
 伊藤 そうかもって？
 良太 最後が決まっていなくて。
 伊藤 結末がまだってこと？
 幸子 どう終わらせるか、先生、迷っていま
 した。まあ、公演までは時間はたつぷりあ
 るし。それより私、台本のあるところだっ
 て全然できていないんです。
 聡美 圭子先生って、どんな方？
 良太 美人です。独身です。今年三十一です
 が、二十四、五にしか見えません。ちなみ
 に俺より十歳上ですが、全然オツケーです。
 聡美 オツケー？
 良太（照れて）だから、その、結婚とか。
 幸子 何がオツケーだ。圭子先生がおまえの
 ような大馬鹿の変態野郎を相手にするか。
 ノーサンキューだ。
 良太 馬鹿は認めるが、変態ではない。
 伊藤 君らの恩師なんだろ？
 良太 俺たちが六年生のときにこの村に赴任
 して来ました。きれいで、可憐で、これが

幸子 ほんとの肥溜めの鶴。
 伊藤 先生、それ以来ずっとこの村に？ そ
 ういうの珍しいね。
 良太 そうなんです。八年いて、ここが廃校
 になったから本校へ移ったんですが……
 思うに、先生はこの村が気にいってるんじ
 やないかと。だったら俺と一緒にになって、
 この住人になればいいのです。
 幸子 しつこい！
 伊藤 もてたんだろうね。
 良太 そりやもう。美人というだけでなく、
 やさしいし、もちろん頭もいい。脚がきれ
 いで胸も結構あります。へのうちどころが
 ないとはこのこと。
 幸子 へじやない、ひだ。おまえ、圭子先生
 の胸、見たことあるのか？
 良太 残念ながら俺はない。俊男が更衣室を
 のぞいて報告してくれた。
 幸子 あの出歯亀！
 聡美 憧れだったのね。
 良太 俺らの先輩たちも、圭子先生を何とか
 しようといろいろチャレンジしたようで
 すが、ことごとく玉碎しました。
 聡美 いろいろって？
 良太 主に夜這いですが。
 聡美 夜這いつて、それ、犯罪でしょ！
 良太 伝統芸能といふべきかと。
 聡美 寝室に忍び込んで……その……しちや
 うんでしょ。それ、犯罪よ！
 良太 無理やりじゃないです。ほとんどがあ
 らかじめ約束ができています。約束がない場合でも、
 合意の下であります。約束がない場合でも、
 オツケーがなければできないわけで、だか
 ら犯罪ではないのでは。ときには女の方か
 ら誘うこともあるわけで。
 伊藤 幸子さんのところへも来る？
 幸子 何がですか？
 伊藤 夜這い。
 幸子 来ません！ 冗談じゃない！

良太 幸子はまだオボコですから。
 幸子 うるさいっ！ 良太、見たことあるの
 か！ 私のおそこ、見たのか！
 伊藤 あそこ……。
 良太 見るわけ……。
 幸子 だったらいい加減なこというな！
 良太 圭子先生だって、夜這いなんて受けつ
 けないんですよ。
 良太 もちろん。それに強力なボディガード
 がおりまして。先生はお寺のはなれに下宿
 してたんですが、そのババアがすごい掘
 なんのつて。鳴子はずける、落とし穴は掘
 る。忍者屋敷じゃないっていうんです。年
 寄りのくせにやたら耳がよくて、匍匐前進
 でやっとこさ先生の部屋の窓までたどり
 ついても、すぐに感づかれて水をぶっかけ
 られるわ、鍬で追いかけてまわされるわ、
 散々な目に会います。庭に地雷をしかけた
 という噂もあつたくらいで……。
 伊藤 先生にはその手の噂がなかったの？
 幸子 それは……。
 良太 あつたじゃねえか。
 幸子 あれは違う。デマだ。
 良太 だつてさ、工事の……。
 幸子 デマだつて。
 良太 そうかな……。
 幸子 デマなの！
 良太 むきになることはねえのに。
 聡美 ……。
 幸子 本校に木村先生って、二十八歳の男の
 先生がいるんですが、圭子先生にご執心だ
 ともつぱらの噂です。かつこよくて人気の
 ある先生です。年下ですが、私、二人はお
 似合いだと思います。
 良太 俺ももう少し早く生まれてたら。
 幸子 木村先生はオペラにも協力してくれて
 います。
 良太 圭子先生といわれるからな。
 伊藤 木村先生はオペラに出ないの？

良太 村民じゃないんです。一応、出演者は
 村の人間と限定してるんで。
 幸子 お二人はどうですか？
 伊藤 え？
 幸子 オペラです。一緒にやりませんか？
 伊藤 僕らは……。
 幸子 だって、ここでペンションやるんでし
 よ。
 良太 村民オペラの参加資格があります。
 聡美 お手伝いぐらいなら……。
 幸子 役、ありますよ。
 聡美 もう決まってるんでしょ。
 幸子 決まったといったって、やる気のない
 のもいるし、やる気はあっても才能のない
 のもいるし。
 良太 俺のことか。
 幸子 大工の棟梁の三郎、これが全然ダメな
 んです。主役なのに。
 良太 宮田の耕平です。郵便局に勤めており
 ます。
 幸子 三郎はたくましくてやさしくて、都か
 らきただけあって洗練された若者です。な
 のに耕平ときたら、完全無欠の田吾作です。
 郵便配っているから日に焼けて真っ黒、背
 中丸めて落ち着き無いし、田舎者を絵に描
 いたようなやつです。村人役のこいつらと
 大差ない。
 良太 悪かったな。
 幸子 ご主人、どうですか？
 伊藤 えっ？
 幸子 三郎の役。
 伊藤 僕？ 僕はダメだよ。
 幸子 雰囲気あると思うんです。声もよく通
 るし。
 伊藤 そんな、ダメ、絶対ダメ。(聡美に)何
 笑ってるんだよ。
 幸子 私が相手役じゃ嫌ですか。
 伊藤 そういうんじゃない。……その、郵便
 局の人に悪いじゃない。
 幸子 悪くないです。耕平のやつ、軽い気持

ちで大役を受けたけど、ほんとに困ってるんです。こんなに難しいとは思わなかった。つて、ぶつぶつ言ってるんです。

聡美　でもね、幸子さんがいいと思っても、他のメンバーはどうかしら。

伊藤　そうだよ。(良太に)ほら、君の親戚で台詞が少ないってごねた……。

良太　本家の義雄さん。

伊藤　そういう人もいるんだろ。新参者がいきなり主役を奪うようなことはできないさ。それに圭子先生だっけ。先生の意向もあるだろうし。

幸子　圭子先生、耕平の歌には正直頭を抱えているんです。

聡美　(伊藤に)やってみる？

伊藤　馬鹿、無責任なこと言うな！

幸子　奥さんはどうですか？

聡美　私？ 私はダメ。

幸子　びつたりの役があるんです。三郎の妹の八重の役。

聡美　妹……。

幸子　兄の行方をさがしに都からやってくるんです。真相を暴く重要な役です。

聡美　……。

良太　農協の事務やってる安子です。これもミスキャストです。

幸子　影のある女という設定ですが、安子には影の字がありません。JAで大根や白菜の出荷伝票書いてるだけの女には土台無理な役なんです。

伊藤　めっちゃめっちゃ言うなあ。

良太　アスパラガスも出します。

幸子　奥さん、びつたりですよ……別に影があるとかいうんでなく。

聡美　いいのよ。でも……。

幸子　いい機会だと思っんです。正直、こういう田舎って、よそ者……すみません。外から来た人には、とっつきにくいっていうか、つきあいづらいです。こんな過疎の村に住んでくれるんだから歓迎しなきゃい

けないのに、妙に警戒するんです。すぐに
気を許したりしません。

良太 コンプレックスです。

伊藤 コンプレックス？

良太 俺はそう思います。

幸子 私もそう思います。でも興味がないわ

けじゃない。じつとようすをうかがってる

んです。東京からきたあの人たちが、あんな

ことをしてた、こんなことを言ってた、す

べて村中に筒抜けです。監視カメラもイン

ターネットもないけど、村の情報網はすご

いんです。

伊藤 こわいね。

幸子 でも、一度受け入れられれば、あとは

楽ですよ。そのためにも、オペラは絶好の

機会だと思っんです。

聡美 幸子さん、一生懸命ね。

幸子 ……。

聡美 主役だから？

幸子 私、このオペラ、絶対成功させたいん

です。隣の連中、驚かせてやりたいんで

す。オペラやるんだっていったら、ほんと

にできるのか、国定忠治の方がいいんじや

ねえかって、笑われた。

良太 国定忠治もいいな。

幸子 あいつら見返してやりたい。それに、

圭子先生が。

聡美 先生が？

幸子 圭子先生、ほんとに一生懸命なんです。

どちらかというと控え目な人で、こんなこ

と自分から提案するような人じゃないん

です。私、びつくりしたものだ。

良太 俺も。

聡美 先生が好きなのね。

幸子 はい…：やってくれます？

聡美 それはちよつと考えさせて。私たち、

まだ…：。

幸子 ここに来ないんですか？

聡美 来るつもりだけど。

幸子 じゃあ。

伊藤 だってさ、これから村と契約して、内装工事なんかして、開業の準備してからだよ、僕らがここへ来るのは。つまりずっと先になるんだよ。練習できないじゃない、一緒に。

幸子 大丈夫です。公演は来年ですから。まだ合同練習は月に2、3回程度です。

聡美 純ちゃん、どうする？

伊藤 どうするって……。

幸子 試しに少し、やってみませんか？

伊藤 今？

幸子 はい。

伊藤 ここで？

幸子 ちょっとだけ、ほんのさわりを。

伊藤 ……まいったなあ。

幸子 これ（伊藤に台本を見せて）……ここ、やってみませんか？ 私、気にいってる台詞なんです。

その間に良太、椅子を動かし、舞台スペースをつくる。

幸子（伊藤に台本を渡し）どうぞ、私、ここ暗記してるから。

良太（幸子に）こんなもんでいいか。

伊藤 ええと、どの台詞だっけ？

幸子 7ページの5行目です。お七の台詞に続いて、三郎の台詞があるでしょ。そこ……じゃ、いいですか。

伊藤（自棄気味に）あいよっ。

幸子（お七の台詞回しで）……都へ帰ったら、きつと私のことなど忘れてしまう。都には美しい女たちが大勢いるのだから。そして夢から覚めたように、どうしてあんな田舎くさい女を相手にしてしまったのかと、悔やまれるに違いない。

伊藤（三郎の台詞回しで）夢を見ているというのはあたっていないよう。だがそれは永久に覚めることのない夢なのだ。その夢の中におまえがいて、その傍らに私がいる。

幸子（お七）三郎様。
伊藤（三郎）お七。

幸子、伊藤に寄り添う。伊藤、あわてて離れる。

幸子　いい。すごくいい！　耕平じゃこうはいかない。ここんどこ、私、いつも吹き出すんです。だって耕平のやつ、授業中におしっこも拉したことがあるんですよ。

良太　四年のときでした。

幸子　私、隣の席だったから、先生に雑巾が

良太　け手伝わされた。

良太　ちようどこのあたりです。やつは昔からやたら近いくせに、気が小さいから便所に行きたいって言えなくて。

幸子　小便たれの泣き顔が浮かんで、三郎様

良太　なんて、とても言えない。

聡美　その気持ちはわかります。

聡美　ねえ良太君、あなたがやれば？

幸子　とんでもない！　良太は音痴です。正

良太　真正銘の。

良太　音痴です。

幸子　三郎には独唱も二重唱もあるんです。

耕平は吹奏楽部にいたんで、一応楽譜は読めるけど歌はダメです。村人役にも合唱がありませんが、こいつは口パクです。

良太　口パクです。

幸子　歌のところもやってみませんか。

伊藤　えーっ、もう勘弁してよ。

幸子　奥さん、ピアノは？

聡美　うーん、大丈夫かなあ。

聡美、楽譜を見る。音を出す。譜面を置いて、ピアノの椅子に座る。弾き出す。巧み。

良太（感嘆）おっ！

幸子（伊藤に楽譜を示し）ここからです。

伊藤　あ、ああ。

咳払いをして、伊藤、三郎のARIA
を歌い出す。聡美が伴奏をつける。

なれるものなら おまえの帯に
ずっと離れず 決して離れず
抱いていたい その腰を
結びし契り 永久にとかずに

幸子が続けて、お七のARIAを歌う。

あなたが旅立つその先は
千里よりも遠いのです
悲しみできつとわたしは
帯の丈があまるほど
やせてしまうのでしょうか

伊藤（三郎）と幸子（お七）の二重唱
になる。

なれるものなら おまえの櫛に
ずっと離れず 決して離れず
とまっていたい その髪に
匂いかぐわし 九死もいとわず

あなたと会えぬ一日は
一年よりも長いのです
悲しみがすぐにわたしの
黒髪を真っ白に
染めてしまうのでしょうか

良太（拍手）こりやいいわ！ ほんとはこうな
るのか。

幸子 すごいですね、初見なのに。

伊藤 すごくないよ。

幸子 ぜひお願いします。圭子先生も喜んで

くれる、絶対。

聡美 いいかもね。

伊藤 おい：：。

幸子 奥さんもお願ひします。

伊藤 そうだ、俺ばかりに。
 良太 そうそう。
 幸子 あれだけ弾けるんだから。
 聡美 ……あのね、幸子さん、その妹なんだけど。
 幸子 八重ですか？
 聡美 どんな女性なの？
 幸子 行方がわからなくなった兄をさがしに、都から村にきます。それを悟られないように身分を偽って。そこで八重は兄と契りを交わしたお七と出会います。八重は兄がどうなったか、さぐりをいれるのですが、お七はなかなか明かしません。
 聡美 なぜ？
 幸子 秘密を知っていたから。
 伊藤 秘密？
 幸子 大寺院建立の本当の目的です。
 聡美 目的？別の目的があったの？
 良太 辺鄙な村に大寺院を建てるなどというのは、よくよく考えて見ればおかしい話だった。実は裏がありました。
 伊藤 裏？
 良太 埋蔵金です。村のどこかに昔滅んだ豪族が隠した金が埋まっていたんであります。隠し場所の大体の見当はつくのだが、その先はわからない。大々的に探したので、は、皆に知られてしまう。それはまずい。秘密裏に、しかも堂々と掘る方法はないものか。
 伊藤 なるほど、それで大寺院建立をでっちあげた。
 幸子 大工の棟梁の三郎はそれを知ってしまった。それで……。
 伊藤 口を封じられそうに……なるほど、なかなかこった台本だ。ただの悲恋物語じゃなさそうだ。
 聡美 この話、もとがあるの？
 良太 もとといいますと？
 聡美 実話にもとづいているとか。
 幸子 村の伝説ですか？

聡美 ええ。お七さんはいたんでしょ。あの池、お七が池っていうんでしょ。幸子 お七は実在の人のようですが、オペラの筋は圭子先生の創作です。伊藤 まったくの？ 幸子 たぶん。聡美 ……先生、この村に来たのは八年前だ。良太 そうです。聡美 じゃあ、例のリゾートの騒動のときにも村にいたのね。良太 ええ。幸子 でも圭子先生、よその人だし。興味もなかったようだし。良太 ……。聡美 それから？ 幸子 え？ 聡美 話の続き。三郎の妹の八重とお七はどうなるの。幸子 お七は秘密を公にして、恋人の無念を晴らしたいと思うのですが、それを邪魔しようとする者がいます。聡美 それは？ 良太 名主です。なんと、村の名主が大寺院建立をでっちあげた連中とつるんでいた伊藤 そうか……。幸子 兄と親しくしていたくせに、兄の行方を教えず、ひたすら口を閉ざすお七に八重は不信感を持ちます。私は嫉妬もあつたのだと思います。伊藤 嫉妬？ 幸子 八重は腹違いの兄に特別な感情を持っています。伊藤 特別などは、男と女の……。幸子 私の勝手な解釈です。圭子先生はそんなこと言ってません。聡美 あの、先生、ほんとにリゾートとは関係ないの。幸子 ありません。

聡美　そう……。
伊藤　埋蔵金は？
幸子　この村にですか？
良太　そんなのがあれば苦労しませんよ。（幸子に）なあ？

幸子、笑う。

伊藤　あのさ、リゾートのことなんだけど。

良太　はい。

伊藤　似てるよね。

良太　何がですか？

伊藤　だからさ、今の話と。

良太　オペラと？

伊藤　うん。

良太　似てますか？

伊藤　だって、大寺院の建設なんてさ、今で

はいえばテーマパークみたいなものじゃ

ないの。全国から人が集まり、村が活性化

するわけだから。

良太　そういえばそうですね。途中でダメにな

ってしまふところも似てる。

伊藤　だろ？

良太　それで埋蔵金？

伊藤　うん、まあ……。

良太　圭子先生がリゾート騒動と重ねたかど

うかは……（幸子に）そうなのかなあ。

幸子　さあ。

聡美　圭子先生は……。

幸子　え？

聡美　圭子先生は何か知ってるんじゃない？

幸子　お二人は何か調べてるんですか？

伊藤　（あわてて）いや、そういうんじゃない

が、不思議だと思っただけさ。君らはそう思わ

なかったの？

幸子　別に……。

伊藤　僕にはわからないことがあるんだけど。

リゾートさ、すごい計画だと思うが、どう

してこの村だったんだろうね。悪いけど、

ここは決して条件がいいとは思えない。首

都 圏からも遠いし、新幹線の駅やインターチェンジからも離れていて、アクセスがいとはいえないし、周囲に観光地や誘引施設もない。土地価格や広さを勘案してもメリットがあるとは思えないんだ。

良 太 それは……。伊 藤 どうしてここだったんだろう。災害のない場所という選択もあるだろうが、ここには活断層も通っているし、斉田川がしよっちゅう氾濫して……。よく浸かるんだろ？

良 太 くわしいですね。

伊 藤 そりゃ、少しは調べるさ。

幸 子 どうしておまえらの村にリゾートなんだ。よその町の連中によくいわれました。やっかみなんです。工事がすすみ、あの観覧車ができたときなど、ほんとに妬ましそうにしていました……。そうですよ、なぜうちの村なのか。そのときは不思議には思わなかったけど。伊 藤 君らのお父さんやお母さんや兄さん、姉さんたちも不思議に思わなかったの？良 太 村の主だった人がうまくやってくれたって……。幸 子に）そうだよな？幸 子 お二人は何かご存知なんですか？

宮沢圭子が教室に入ってくる。

良 太 圭子先生。

圭 子 良太君もいたの？

幸 子 どうしたんですか？

圭 子 幸ちゃんのうちに行ったのよ。そしてたらこっちだった。野菜の入った袋を見せる。おばあちゃんに、これいだいて……。伊 藤と聡美に気づいて頭を下げる。

良 太 東京から。

圭 子 東京？

幸 子 分校をペンションに。

圭 子 ……ああ、ここを。ペンション……。いかもね。それで東京から見にいらした。

聡美 オペラの先生ですか？
 圭子（幸子に）そんな話、したの？
 幸子 圭子先生、歌、聞こえませんでした？
 圭子 お地藏様のそばまできたらピアノの音が。
 が。幸っちゃん、練習してるなって。ピアノ、うまくなったね。
 幸子 私じゃないです。こちらの……。
 聡美 伊藤です。
 圭子 あ、宮沢です。
 良太 男の声も聞こえませんでしたか？あれ、俺じゃないです。こちらのご主人。やたらうまいです。
 幸子 オペラに参加しないかって誘ったんです。だって、こちらへきて住人になるんです。村民なんです。
 伊藤 僕は……。
 圭子 この村の方なら誰でもいいんですが。伊藤 幸子さんは三郎をやれていうんですが、もう決まってるんだからまずいよって……。
 幸子 先生、耕平とは比較にならないです。伊藤さん、本格的です。
 圭子 でも、耕平君も頑張ってるわよ。
 伊藤（幸子に）だろ。
 幸子 先生、耕平、手に余ってるんです。かえって、かわいそうです。
 圭子、でもね、幸っちゃん。
 幸子 私、せっかくの先生の作品、ズッコケ村芝居なんかにしたくないんです。
 良太 NHKにもきてもらいたい。
 圭子 ：ちよつと考えさせてくれるかな。
 幸子 ああ、先生、私に用って？
 圭子 肝心なこと忘れてた。最後の部分、やつとできたから見せようと思って。
 幸子 できたんですか（原稿、受け取る）。
 圭子 みんなに相談したかったの。
 幸子 楽しみ。
 聡美 あの……。
 圭子 はい。
 聡美 私たちにも見せていただくわけにはい

圭子 きませんか。
聡美 これを？
圭子 ええ、村民オペラの結末を。
圭子 ……。

暗転。

4

村役場の一室。同日三時頃。
椅子にどっかり腰をかけている本多。
鏑木は立ったまま。

本多 権藤事務所に連絡してみた。

鏑木 何か言っていました？

本多 おまえらの村のために、いろんなところへ声をかけてやってるんだってさ。いつもの調子だ（笑）……それでそのIT社長だ。がな、ずいぶん幅広く事業展開しているらしい。かなり有望だよ。ちよっと変わり業者らしいが、業界でもやり手で注目株の実業家だそう。先生も懇意だそう。何かあったらうまく処理してやるって。

鏑木 うまく処理して、何ですか。

本多 だから、つまり……いい話だったらうまく運んでやるってことだ。

鏑木 ほんとですかね。

本多 権藤先生を信用してないのか。

鏑木 政治家はみんな同じです。

本多 先生は違う。

鏑木 あれだけ手のひら返すようなことされても、忠誠をつくすんですか。

本多 先生は裏切ったわけじゃない。

鏑木 うまくいったら、実は俺が手を回してやったおかげだとくるんですよ。決まっています。

本多 そういふがあんただって。

鏑木 ええ、あのときはね。

本多 設備がないそうです。
 本多 決まったわけでもない。
 本多 だが、隣町でやることはない。合併が
 本多 町でやるんだ。なぜうちでやらない！
 本多 隣の町民ホールですよ。
 本多 必要はないぞ。
 本多 どこでやるんだ？ 公民館か？ 貸す
 本多 れも村民何とかと名乗ってるんだぞ。
 本多 よそ者に馬鹿にされて平気なのか。そ
 本多 誰だって、まあ……。
 本多 誰が言ってるんですか？
 本多 誰かが言っとったが、そのオペラとか
 本多 誰かがある、女は不幸だな。
 本多 生だと思つたら……。アカだったか。
 本多 芝居だろ。
 本多 そういふ言い方、まずいですよ。
 本多 日教組なんて怖くねえ。おとなしい先
 本多 うです。
 本多 そんなもの、略すな。要するにアカの
 本多 村民オペラ。省略するとソンペラだそ
 本多 何だ、そりゃ？
 本多 ソンペラ。
 本多 変な芝居をやるのやらのって。
 本多 宮沢先生ですか。女の。
 本多 ほら、分校にいた。女の。
 本多 厄介な先生？
 本多 厄介な先生。
 本多 介な先生。
 本多 知ってます。
 本多 ……ああ、先生といえ、あっちの厄

鍋木　うちの公民館には、芝居をするための設備がないんです。照明とか。しかたないですな。

本多　隣町に言って、ことわらせろ。

鍋木　何て言うんですか？　それこそいい笑
いものだ。本多さん、かわりに言ってきた
くださいよ。

本多　村から金が出てるんだろ。

鍋木　出ていません。『朝日村便り』に出演者募集の記事を載せてやったぐらいだ。あとは公民館を練習場に貸すぐらい。それもこ

とわかっていうんですか。

本多　俺はとにかく、蒸しかえされるのが嫌
なんだ。

鍋木　私だって嫌です。

本多　その先生なんだが、地藏坂を歩いてい
たぞ。まさか分校へ行くんじゃないだろう
な。

鍋木　良太と幸子もオペラの練習で来てたか
ら、合流するんじゃないですか。

本多　おい、何、のんきなこと言ってるんだ！
分校にはIT社長がいるんだろ。ガキども
はともかく、アカの女先生に会わせるのは
まずい。

鍋木　……。

本多　まずいぞ。何か余計なことを。

鍋木　……行って来ます。

本多　うまくやれ。何だったら権藤先生の名
前を出したっていい。

鍋木、退場。

本多、リゾートのジオラマの前に立
つ。

本多　……何が、天使の村だ。

ジオラマの観覧車の模型にふれる。

本多　まさか、あの女……。

柳沢、入ってくる。かなりあわてたようす。

本多 何だ？

柳沢 助役さんは？

本多 今出て行ったばかりだ。会わなかったのか？

柳沢 どこですか？

本多 分校だよ。例のIT社長のところ。

柳沢 違うんです。

本多 え？

柳沢 違うんです。

本多 何が？

柳沢 IT社長じゃないんです。

本多 じゃあ、何社長なんだ？

柳沢 社長じゃないんです。そういうんじゃないんです。

本多 おまえが調べてきたんだろ！ じゃあ何者なんだ。ほんとにペンションだかマン

ションだかをやるつもりをやつか：：あ

あ、つまらん。騒がせやがって。雄司、岡

つ引き失格だ。

柳沢 まずいんです。

本多 そりやまずいだろうよ。IT社長じゃないんだからな。

柳沢 やつは記者です。雑誌の。

本多 何だと！

柳沢 記者です。それも昔、月刊『核心』つてヨタ雑誌に、うちの村のリゾートにケチをつける記事を書いた。

本多 権藤先生のことを書いた、あれか。

柳沢 そうです。あれです。リゾート計画の

陰に大物代議士がいるとか、利権がらみの

強引な誘致活動があったとか。

本多 あれを書いたトップ屋が、どうしてIT

社長なんだ。

柳沢 IT社長なんかじゃありません。

本多 おまえが言ったんじゃないか！

柳沢 別人です。

本多 IT社長は別にいるのか？

しょうがないだろ。

柳沢 あのだ。：

本多 何だ。

柳沢 いえ、別に。

本多 何をさぐりにきやがったんだ。

柳沢 じゃあ、ほんとにペンションを。

本多 おまえは馬鹿か！一度死ね！ それ

で記者と一緒にいる女は何者だ。

柳沢 女ですか？ それは：：夫婦なんじゃ

本多 ないですか。カムフラージュに。あ。

柳沢 夫婦連れで取材にくるか！：：あ。

本多 どうしたんですか。

柳沢 まずい。

本多 何が？

柳沢 トップ屋と分校の女先生が顔を合わせ

る。

柳沢 宮沢先生ですか。

本多 まずいな。

柳沢 まずいですか。

本多 まずい。

柳沢 ：。

本多 すぐ分校へ走って、助役に伝えろ。

柳沢 はい。

本多 他の連中には気がつかれないように。

柳沢 そつと。

本多 そうだ。

柳沢 本多さんは？

本多 あとから行く、うちへ寄ってから。

柳沢 ：。

本多 いいから、早く行け！

柳沢、飛び出す。

暗転。

5

教室。三時半頃。

幸子の伴奏で聡美が八重のエリアを歌う。

しあわせだったあの頃
何も知らぬ 幼い日
あなたにまわりつき
あなたに手をとられ
あなたにおぶられ
あなたと眠った
いつでも守ってくれたのに
涙もふいてくれたのに
いまはもう

幸子　ね、先生。

圭子　：：うん。

幸子　それでも安子にやらせます？

圭子　幸ちゃん。私ね、村の若いみんなが、心を一つにして何かに一生懸命になることが大事だと思うの。確かに、伊藤さんたちは上手よ。レベルが違う。でもね、それじゃ朝日村の若者たちによるオペラにならない。少々下手でも、気持ち伝わることの方が：：。

幸子　伊藤さんたちも村民です。じき村民になるんです。資格はあるんです。

圭子　形式的にはね。でも周りはそう思ってくれる？ 私、この村へ来て八年になる。住民票もここにあるわ。でも村の人間として認められるようになったのはいつ頃からかしら。いいえ、今だって私のことをよそ者扱いする人は大勢いるわ。

良太　圭子先生は立派な、正真正銘の朝日村の村民です。おかしなこと言うやつは、この俺が許しません。

圭子　お二人にご協力いただければたすかります。大歓迎です。でも配役の方はこのままでもいい。

幸子　でも：：。

伊藤　幸子さん、先生のおっしゃるとおりだよ。僕らもさ、できるだけお手伝いをするから。

幸子　：：。

聡美 先生。

圭子 はい。

聡美 なぜ、こんな悲しい話なんですか？

聡美 先生は村の若い人たちがみんな一緒に
なって打ち込めるものということで、こ
のオペラを発案されたとのことですが、そ
れならなぜもつと明るい、元氣が出るよう
な題材にしなかったのか……どうしてこ
んな暗い、救いのない物語にしたのか。

伊藤 聡美。

聡美 これが村の伝説に基づいたというなら
わかります。しかし、先生の創作のよう
すね。私だったら、こんなテーマは選ばな
い。この話には何か別の意図が、何かメッ
セージがあるのですか。

圭子 メッセーじなんて……ただ喜劇より、
こういう悲劇っぽいものの方が書きやす
かったというだけです。少女趣味だとおっ
しやりたい？

聡美 ハッピーエンドにはならなかったの
ですか？

圭子 それは……。

聡美 村の人々が手を取りあい、明るい未来
のために頑張ることを誓う。そういう終わ
り方にはならなかったのですか？

圭子 ……。

聡美 それと、この妹の八重という女性です
が、この女性には誰かモデ……。

鏑木が教室に入ってくる。

鏑木 どうもすみません。会合が長引いて……

： 宮沢先生もおいでしたか……おい、良

太、ちやんとご案内したのか？

良太 ご案内も何も、これっきりの所だし。

鏑木 幸子もありがとう。もういいぞ。

幸子 もういいって？

鏑木 だから、後は俺がご案内するから帰っ
ていい。

伊藤 彼らはオペラの練習が。
 鎗木 こちらが優先です。(圭子に) 先生、練習は公民館の方でお願いします。ここはもうお貸しすることになるので。
 伊藤 まだいいじゃないですか。僕らも村民オペラに協力したいので。
 鎗木 ……文化活動に興味があるのですか？
 伊藤 興味というか、おうかがいしたらすごいじゃないですか。村のいい宣伝になりま
 すよ。
 鎗木 そうですかね。
 良太 NHKが来ます。
 鎗木 注目されるのはいいことですが。
 聡美 埋蔵金は。
 鎗木 え？
 聡美 そういうのはいんですか？
 鎗木 この村に？
 聡美 ええ。
 鎗木 (圭子に) 先生、だから申し上げたでしょ。誤解される方が出てくるって……(聡美に) ありません。残念ながら。
 良太 俺もないって。
 聡美 先生はどうですか？
 圭子 あれは……。
 聡美 何かの喩え？
 鎗木 わかった、わかりました。じゃあ、練習を続けて結構。(伊藤に) あとは、いかがですか。役場の方でいろいろ説明する
 伊藤 いろいろ？
 鎗木 まあ、村の今後の方針というか、考え方というか。
 伊藤 明るい未来のための。
 鎗木 そういうことです。
 聡美 先生は何か知ってる。
 伊藤 聡美。
 聡美 そうでしょ？
 圭子 ……。
 鎗木 (良太に) どうなってるんだ？
 良太 わかりませんよ。

鍋木（幸子に）おまえら、何か余計なことを言っただろ。
幸子 余計なことって、何ですか？
聡美（圭子に）そして何か伝えたい。
圭子 あなたは……。
鍋木 先生、何をされてもいいが、よその人にあまりおかしなことは吹き込まないでほしい。さ、社長まいりましょう。
伊藤 社長？
鍋木 すみません。実は社長を知ってるものがおりまして。お忍びということでしょうが、まあ、そこはひとつ。
良太 社長さんなんだ。
伊藤 社長とは？
鍋木 伊東純一さんですよ。グローバル……ネットワークの。
幸子 聞いたことある。
良太 有名なのか。
幸子 ベンチャーの雄。IT業界の旗手……だったかな。
良太 何かすごそうだな。

伊藤、笑う。

伊藤 伊東……そうか、伊藤違いか……助役さん、残念ですが、僕は今をときめくあの伊東純一ではありません。
鍋木 お隠しにならなくても。
伊藤 彼がこの村を拠点に何か事業でも考えていると思ったのですか。失礼だが、それはありえない話だ。
鍋木 権藤先生をご存知では。
伊藤 権藤？ それはもしかして代議士の権藤巧のことですか？
鍋木 そうです。
伊藤 知っていますよ。よく知ってる。向こうも僕のことを知っています。
鍋木 権藤先生が社長にこの村を推薦されたのではないのですか？
伊藤 僕は、その伊東純一ではない。

隠してもいけません。

鎗木　でも権藤先生を。

伊藤　知ってます。それは本当です。先生とは古くからのつきあいだ。

鎗木　あなたは？

伊藤　権藤は私のことをドブ鼠と呼んでいましたよ。確かに、権藤のまわりはドブのようなもんだ。いつも汚い金の腐ったにおいがしてた。

柳沢、教室に入ってくる。

良太　何だ、駐在か。

柳沢　何だとは何だ！　良太、目上の者に対して。

幸子　敬語を使いたくなる相手じゃないってことです。

柳沢　幸子、てめえ。

幸子　こんなところにうろろしてないで、早くお宮の賽銭泥棒でも捕まえてくださいよ。

柳沢　…助役。

鎗木　何だ。

柳沢　ちよつと。

柳沢、鎗木と陰で話す。

圭子　お二人はペンションをお始めになるつもりなんてない。違いますか？

伊藤　…。

圭子　目的は何ですか？

鎗木　何だと！

柳沢　だから…。

鎗木　だからも、オカラもあるか！

幸子　何、興奮してるんだか。

鎗木　（伊藤に）おい、貴様。

良太　今度は貴様だって。

伊藤　ちゃんと調べがついたんですか、そこ

鎗木　のおまわりさんに。何がIT社長だ、騙しやがって。

伊藤 そちらが勝手にそう思ったんでしょ。

鎗木 僕はそんなこと一言もいってない。中傷記事を書いたトップ屋とはな。

圭子 ……『核心』の記者さん。

伊藤 ええ。

良太 (幸子に) トップ屋って？

幸子 芸能界や政界のスクランダルなんかの特種を書く記者のこと。

良太 よくわからんが、かっこいいな。

圭子 あの記事読みました。

伊藤 そうですか。

鎗木 全部嘘八百だ。

伊藤 核心に迫れなかったことは認めますよ。だが、権藤巧が霞ヶ関を動かして、ここにリゾートを誘致したことは確かだ。

鎗木 それのどこが悪い。

伊藤 なぜこの村だったか。それがどうしてもわからなかった。もつとふさわしい場所はある。ここでは初めから失敗するのを覚悟していたみたいだ。いや、少なくとも乗り気ではなかった。

鎗木 権藤先生は我々有権者のために。

伊藤 権藤が千人もいない村の票欲しさに動くわけがない。

鎗木 貴様に政治はわからん。

伊藤 わかりませんね。ただ、その後わかったことがある。それは陰で糸を引いていたのが、権藤などという小物じゃないというのだ。

良太 何だかたいへんなことになったな。

幸子 ……。

柳沢 助役、こいつら逮捕しますか？

鎗木 え？

柳沢 だって助役を騙そうとしたんだから、詐欺だ。

伊藤 騙す？ 誰が騙した？ いいかい、僕は本名を名乗って申し込んだんだぜ。僕は柳沢ペンションなんてつくる気がないだろう。それが詐欺だっていうんだ。

伊藤 おまわりさん、あまり頭はよくないね。
 良太 確かに。
 柳沢 何だと！
 鎗木 雄司、黙ってる！
 柳沢 しかし……。
 鎗木 ペンションをつくろうが、つくるまい
 が、そんなことどうでもいい。それで記者さ
 ん、今頃ここへ何をしにきたんですか？
 聡美 兄の行方です。
 鎗木 兄？
 圭子 兄？
 鎗木 あんたは？
 聡美 萩原聡美。萩原孝の妹です。ご存知で
 すよね。
 圭子 孝さんの……。
 鎗木 清水建設の設計主任。テーマパーク
 を担当していました。あの観覧車も現場で
 指揮をとっていたはず。
 鎗木 ！：：そういう方がいたかもしれない。
 でも忘れた。我々にとっては思い出したく
 ないことだ。
 聡美 リゾートが突然中止になり、工事関係
 者は引き上げました。ところが、行方がわ
 からなくなった者が二名いました。兄とそ
 の部下だった安井真人さん。
 鎗木 ！：。
 聡美 安井さんは見つかった。溺死体で。そ
 う、あのお七が池で。
 柳沢 あそこはよく人が溺れる。
 聡美 あなた、その当時、ここの駐在ではな
 かったの？
 柳沢 俺は：：。
 幸子 そうです。栄転もできず、ずっとここ
 にいるの。
 柳沢 うるせえ！
 聡美 安井さんは殺された。
 柳沢 事故死だ。池にはまって溺れた。平巡
 査の言うことが信じられないなら、署に行
 って調書でも何でも見てこい。

聡美 お葬式に行きました。暴行の跡があったという噂でした。
幸子 暴行……なのにどうして事故死にされたの。

聡美 警察が隠したんです。

幸子 どうして？

良太（柳沢に）てめえ、知ってること吐け。

柳沢 良太、殺すぞ！

良太 おまえが殺したのか？

柳沢 ふざけるな！ 俺は、警察官になりたてのペーペーで。

幸子 今と同じ。

柳沢 俺なんぞ、蚊帳の外だ。

鍋木 もういい！

伊藤 なぜ、今頃になって調べに来たか。それは彼女が僕をたずねてきたからですよ。

良太 夫婦じゃなかったんだ。

伊藤 六年前の僕の記事をたまたま目にしたこの人が、行方不明になった兄さんの話をしてくれた。僕も尻きれトンボに終わったこの話に決着をつけたかった。

鍋木 それで夫婦に化けて村に潜入か。

伊藤 そういうこと。

鍋木 それは残念でしたな。こんなにも早く化けの皮がはがれるとは思わなかったでしょう……ここはもういろいろ言わないことにします。だから、さっさと引き揚げてください。

聡美（圭子に）先生、先生は何か知ってますね。

圭子 ……。

柳沢 こいつはよそ者だ。

良太 こいつだと！ 圭子先生に向かつて。

もう許せねえ、ぶつとばす。

幸子 良太、やっていいよ。

柳沢 何だ、おまえ。犯罪だぞ。公務執行妨害だ。刑務所行きだぞ。

良太 おお、上等だ。この村には俺だけじゃなく先生のためなら何でもするってのが、大勢いるのを知ってるだろ。どんな目に会

いたいと言ってみろ。何が公務だ。助役の小間使いがえらそうに。

柳沢（拳銃のホルダーを指し）これが見えねえか。

良太 黄門様の印籠か！ 弾が入ってねえことなんか先刻承知だ。

幸子 良太は頭は空だが、腕っぷしだけは強いぞ。配達で鍛えてるから。

聡美（圭子に）兄はどこですか？

圭子 ……。

聡美 知っているんですね？

圭子 わかりません。

聡美 ……兄はもう死んでるの？

圭子 ……。

柳沢 この村と関係ねえ話だ。

良太 黙れ、公僕！

聡美 圭子先生は兄と…。

幸子 先生、あの人でしょ？

聡美 わかったわ。このオペラの意味が。

伊藤 五重の塔を建てに都から来た三郎というのは君の兄さんで…。

幸子 お七は圭子先生。

伊藤 先生、これは告発のための芝居なんですか？

柳沢 何をご存知なんですか？

幸子 何が文化活動だ。村の活性化だ。おい、幸子、良太、おまえらはこの先生に利用されていたんだ。のせられていたんだ。ざまあみろ。

良太 駐在、てめえも何か知ってるな。

柳沢 知らねえ。

幸子 助役さん、どういうことなんですか？

助役さんは知ってるんですよ。リゾート騒動の後、そんな恐ろしいことがあったなんて。私たちはガキだから全然知らなかった。

でも、圭子先生が工事の人と一緒にいるところは何度も見た。背が高くて、かつこい

良太 俺たち、あれは絶対あやしいって。幸子 でも突然いなくなつた。先生を捨てて

東京に帰ったんだと思っていた。

鎚木 何にもない。

幸子 あの当時はみんなおかしかった。そりや無理もなかったけど。

鎚木 ……無理もない？ 無理もないか。無理もないさ。おかしくもなる。何もかも才ジャンだ。ガキどもに何がわかる。(伊藤に) あんたもだ。飯の種かも知れないが、何でも首をつっこんでいいってもんじゃない。おかげで俺たちがどれだけ……。

伊藤 あんたはまさか、僕の記事が原因でリゾートが破綻したなどというんじゃないだろうね。僕があれを書いたときにはもう撤退が決まっていた。違うか？

鎚木 ……。

伊藤 撤退は民間企業の判断としてはあたりまえだ。あんたらの状況判断が甘かったんだよ。もともと、素人が関わるような開発じゃなかったんだ。

鎚木 ……その通りだ。その通り。三セクに派遣されていた東洋リゾートの連中は、どいつもこいつも我々を田舎の小役人として見下していたよ。俺たちがうまくやってやるから、おまえらは口を出さな……会議では大学出の俺にさえわからないような横文字の濫用で煙に巻くばかり。それはどういう意味だと尋ねるものがあると、せせら笑って少しは勉強してくださいよとくる。村長でさえ、孫のような若僧にあごでつかわれていた……それでも我慢したよ。消えてしまいうような、風前の灯火の村に繁栄をもたらせてくれる。起死回生のチャンスを与えるんだ……やつら、やりたい放題だった。でも俺はみんなを我慢させた。どんなに悔しくても。

幸子 馬鹿みたい！

鎚木 馬鹿だよ。馬鹿だ。実現が難しくなったのに、あいつらそれを隠し、でたらめな数字でとりつくろって、にっちもさっちもいなくなったらあつという間に姿を消

した。まるで夜逃げだ。見事なもんだ。

伊藤 責任を追及すればよかった。

鍋木 計画倒産ってやつだ。知ってるだろ、記者なら。

伊藤 親会社に行けばいい。

鍋木 行つたよ。おしかけたよ……けんもほろろ、とりつく島もないってやつだ。弁護士だかなんだかが出てきて、関連会社の件で責任を負う義務はないとほざいた。賠償などできないと。確かに、三セクとはそういうものかも知れない。でも、あいつら自分らの被害は極力抑えて、ほとんど村におつかぶせたんだよ。それを言うとなんか野郎はニヤニヤして言ったよ。じゃあ、裁判でも何でも起こしてください。こちらは受けて立ちますよ。言っときますが、裁判費用も馬鹿にならないですよ。大丈夫ですか……。

柳沢 くそつたれ！

鍋木 勝ち目がないことなんてわかってる。向こうは大企業。こっちは従業員数の百分の一にも満たない寒村だ。あの弁護士顔の一生忘れない。いつそあのときぶち殺してやったら……。

聡美 それで殺したんですか。安井さんと兄を。

鍋木 当時、頭に血が上っていた連中がいたことは確かだ。

聡美 自分は無関係といたいたんですか。

鍋木 安井さんも、あんなの兄さんも大清水建設の人間だ。工事が取りやめになったおかげで損をしている。東洋リゾートの悪党どもとは違う。むしろ被害者だ。

聡美 でも安井さんを暴行したのは、村の人

鍋木 なんですよう。

伊藤 ……。

鍋木 ……。

聡美 ……。

兄もその人たちに？

圭子 孝さんは自分が狙われるかもしれないと言っていました。すぐに東京に帰ればよかったんです……。

伊藤 なぜ萩原さんは狙われるんですか？
だって彼は、リゾートの責任者でも何でも
ない。ただの工事の……。

圭子 ……。
聡美 狙われる理由を兄から聞いていたんで
しょ？

圭子 見つけてしまったんです。

伊藤 見つけた？

圭子 彼と安井さんが工事中に。それを公表
すると、自分の身が危ないと……現実にな
りました。

良太 見つけたって……埋蔵金？

幸子 嘘。

伊藤 先生、それは？

本多 先生、そこまで！

本多、教室に入ってくる。手には猟
に使う散弾銃。

良太 何だ！

伊藤 何者だ？

幸子 本多のジジイです。村議会の議長。

本多 こんなことだろうと思ってた。へ圭子
に（やっぱりあいつに聞いていたのか……
おい、動くなよ。

柳沢 本多さん、そりやまずい。

本多 ……雄司、おまえ、安井をボコボコに
したときに現場にいただろ。

柳沢 俺は何にもしてねえ。

本多 おまわりが暴行を止めなかったら同罪
だ。

鎗木 雄司、ほんとか？

柳沢 止めようとした。でも俺には……それ
におかしいんだ。若い衆はなぐつたが絶対

殺してなんかいない。大体、暴行現場はお
七が池とは離れている。やつが死んだのは、
あれは本当に事故だ。それに……。

鎗木 それに何だ。

柳沢 みんな、あいつは東洋リゾートのやつ

だ。聞いて聞かされてた。

聡美 圭子さん、兄が見つけたものって。

本多 おい、先生。それをしゃべったらズド

ンだ。

伊藤 こいつ、頭がおかしいのか！

本多 トップ屋、おまえも死にてえか。

伊藤 どうやら裏があつたようだな。

聡美 圭子さん。

圭子（本多に向かつて）……どうぞ。

本多 本気だぞ

圭子 こんなことがあるかも知れないと覚悟

してましたから。でも何かあつたら、自動

的に公表できるようにしてあります。

本多 ハッタリだ。なぜ、さつさと公表しな

かったんだ。

圭子 誰が黒幕か知りたかつたから。そして

孝さんの居場所を……。

本多 俺をはめたつもりか？

幸子 駐在、早くとりあげなさいよ！

柳沢 だつて……。

本多 なら確かめてやるよ、言ったことが本

当かどうか（圭子に狙いを定める）。

良太、その瞬間にとびかかり、散弾

銃の筒先をつかむ。

本多 てめえ、撃つぞ！

良太 撃つてみるよ。おっさんも一緒に吹っ

とぶぞ！

幸子、すかさず本多の足にタツクル

をくらわす。本多、倒れる。

良太 ナイス、タツクル！

良太、銃を奪う。

鎗木 本多さん、どうい

うことですか？

本多 うるせえ！ おまえが無能だからこう
いうことになるんだ！
圭子 …… 砲弾です。
聡美 砲弾？ 大砲の弾ですか？
圭子 古いものだ。
伊藤 日本軍のか。
圭子 普通の砲弾ではないと、彼は言っ
てま
良太 普通じゃないって？
圭子 それは…。
伊藤 毒ガス…：…ですか？
圭子（うなづく）…：…。
良太 毒ガスって？
幸子 毒のガスよ。
伊藤 日本軍は毒ガス兵器を大量につく
て
いたんだ。主に砲弾に仕込まれる。びら
性のイベリット、ルイサイト…：…。
良太 びらん？
伊藤 ただれるんだ。
良太 ただれる…：…。
伊藤 致死性の青酸ガス、窒息剤のホス
ゲン、
良太 マスタードなんてのもある。
良太 爆発したらやばいですよね。
伊藤 やばいさ。神経ガスを浴びたらあ
つと
いう間に死んじまうよ。爆発しなくても、
腐食しているだろうから中味が漏れて
く
る。毒物が地面に染みこむ。
良太 やばい…：…。
伊藤 日本軍は全部で七百万発つくった。
そ
のうち七十万発は中国にある。今でもし
よ
つちゆう事故が起きているよ。農民が被害
に
あっている。
良太 日本にも残ってるんですか？
伊藤 国内のものは多くが海中投棄され
た。
だがすべてではない。戦争が終わったとき
、
ひそかに埋められたものが相当あったん
だ。
だから戦後これだけたってもいまだに
発
見
されることがある。
幸子 そんなものが、うちの村にあるの？
鍋木 知らん。

本多 村でも知ってるものはわずかだ。村長も知らん。

伊藤 なぜ、さっさと撤去しなかったんですか。

本多 お上がなかなか片づけてくれなかったんだよ。ぐずぐずしている間に、そいつが昭和三十三年の斉田川の氾濫のとき流れちまった。何発も。

鎚木 流れた……。

幸子 毒ガスの爆弾が？

良太 ということは、この村のどこかにそいつが埋まってるってこと？

鎚木 今までなぜ、黙ってたんですか？

本多 なぜ黙ってたかだと？ しゃべればよかったのか？ 一発でこの村を地獄に落とす砲弾が埋まってますから、農作業の際にはご注意くださいっていうのか？ どうなる？ パニックだ。それこそおしまいだ。国が乗り出してくるだろう。だがな、村中を掘りつくすのにどのくらいかかる？

伊藤 何発なんだ、なくなったのは？

本多 わからん。一発かも知れんし、十発かも。俺が管理していたわけではない。なんせ、終戦前のドサクサだ。

聡美 それを兄が見つけたんですね。

伊藤 リゾートの工事が始まれば見つかるかもしれない。そうは思わなかったのか？

本多 覚悟していた。そのときはそつと回収するつもりだった。

伊藤 危険だ、あまりにも。毒ガス弾だぞ。処理の難しさは不発弾の比じゃない。

本多 あの男もそう言ったよ。

聡美 それで兄を。

本多 ……。

伊藤 おかしい。少なくとも国は、霞ヶ関は知っていたはずだ。この村に毒ガス弾があることを。なのにどうして、リゾート計画を許可したんだ。

良太 リゾートにかこつけて砲弾をさがすつ

もりだったんじゃないんですか。圭子先生
のオペラの話と同じように。

幸子 埋蔵金と毒ガス弾じゃ……。

鎗木 そうじゃない。

幸子 そうじゃないって？

鎗木 毒ガス兵器があることを逆に利用した
んだ。

伊藤 そうか、国を脅したのか。

本多（笑いながら）国の強力な後押しがなく
て、こんな小さな村があれだけのリゾート
を誘致できるものか。脅したんじゃない。
国のお詫びだ。当然だ。

鎗木 権藤先生の力ばかりと。

本多 おめでたいやつだ。

幸子 でも結局、リゾート、ダメになったん
じゃない。

良太 そうだ。

本多 そこまでめんどろをみてるものか。

破綻がみえている計画を無理やり続行さ
せる権限など、国にもない。

鎗木 俺は踊らされていたのか。

聡美 兄はどこですか？

圭子、散弾銃を良太から奪い、本多
に突きつける。

聡美 圭子さん！

幸子 先生！

圭子 孝さんはどこですか！

本多 ……撃てるものか。

圭子 撃てます（引鉄に指をかける）。

柳沢 あんたの兄さんは……。

本多（柳沢に）黙れ！

柳沢 ああ、あの晩、あんたの兄さんも安井とい
ところを襲われたんだ。でも逃げた。かな
り怪我をしていたが、逃げたんだよ。

聡美 怪我を……。

柳沢 若い衆が何人か追いかけていった。だ
が、しばらくして戻って来た。観覧車のあ
たりまで追っかけたが見失ったって。そし

伊藤 たら……。
 柳沢 そしたら……。
 ねえ、かって……。それでまたみんなで、あ
 たんだ。だが、いなかった。それ以来、あ
 んたの兄さんを見たものはいない。きつと、
 どこかへ逃げのびたんだ。
 圭子 観覧車のゴンドラ……。
 幸子 逃げのびたなら、いなくなることはな
 いはずよ。
 良太 そうだよな。
 伊藤 ゴンドラには、ほんとうに萩原さんは
 いなかったのか？
 柳沢 いなかった……。ただ。
 鍋木 ただ、何だ？
 柳沢 気のせいかもしれない……。
 幸子 はっきり言いなさいよ！
 柳沢 俺たちが観覧車の下にきたとき……。や
 っぱり気のせいだ。
 鍋木 雄司！
 柳沢 止まったんだ。
 良太 止まった？ 観覧車が？
 柳沢 (うなづく)……。
 幸子 止まったってことは、それまで動いて
 いたってこと？
 伊藤 最初の追っ手がきたときは動いていな
 かったんだろう？ ということは、その後、
 動いたのか？
 幸子 なぜ？
 良太 聡美さんのお兄さんが逃げようとして
 動かした？
 伊藤 ゴンドラに乗った人間に、観覧車を操
 作することはできないはずだ。
 良太 じゃあ、外から動かしたやつがいるん
 だ。
 幸子 なぜ？
 良太 なぜって、そりゃ……。
 圭子 孝さんがゴンドラに隠れているのを知
 って。
 伊藤 そうか！ ゴンドラは外から鍵をかけ

る。鍵をかけて閉じ込めて。
幸子 誰がそんなこと……。
聡美 ……。
伊藤（本多を指し）動かしたのはおそろくこ
いっだ。村の若い連中をたきつけ、自分は
裏にいて。
本多 ……。
伊藤 そうなんだな。
本多 ……。
幸子 何てこと！
良太 怪我を負ってる人をゴンドラで吊り上
げて、そのままほったらかしに……
幸子 ひどい、ひどすぎる！
伊藤（摘木に）助役、あなたも知ってたんだ
ろう！
摘木 知らない！
伊藤 じゃあ、なぜだ。なぜ、観覧車をあの
ままにしておいた。
摘木 撤去には何億もかかるんだ……知らないな
かった。そんなことがあったと知ってれば
動かさないわけが……。
良太 完璧な隠し場所だ。
幸子 良太！
伊藤（良太に）どうしても動かないのか？
良太 電気、きてないです。
聡美 ……兄は、兄は今でもあそこに、あの
ゴンドラの中にいるのですね！
圭子（嗚咽）ああ……。
幸子 助役さん、何とかならないの！（本
多を指し）こいつとグルじゃないんなら、
何とかしてよ！
本多 ダメだ、そいつは。大学出だから少し
は役に立つと思ったら、まるで使えない能
無しだった。

圭子、銃を自分に向ける。

良太 先生！

良太、圭子から銃を奪う。

幸子 何、してんの！
聡美 圭子さん！
圭子 ……私、お兄さんを見殺しにしてしまった。ゴンドラの中から孝さんは、私に助けを求めていたはずなのに。
本多 あれはずっとあのままだ。
伊藤 何だと！
本多 ずいぶん頑丈につくられてる。ちょっとやそつとの地震や台風ぐらいじゃびくともしないだろう。百年は持つな。
伊藤 ふざけるな！ このままですむと思うのか。
本多 安井の事件はもう処理済だ。そして、あんたの兄さんは永久に見つからない。
聡美 兄はあそこにいるわ。
本多 あんたらの想像にすぎん。雄司の言うことなんてあてになるものか。
柳沢 俺は……。
本多 いるかもしれないというだけでは警察は動かない。
良太 あんなに高くちゃ、俺がのぼるわけにいかんし……伊藤さんは高所恐怖症……。
本多 もう帰してくれないか。
伊藤 人に銃を突きつけておいて、無罪放免になると思うか？
本多 そうか、ならその先生も同罪だぞ。俺も殺されそうになった。
幸子 先生は違うわ。それはあんたが……。
鍋木（本多に）毒ガス弾はどなんですか？
本多 それも証拠はない。
圭子 あります。写真もあるはずです。
本多 どこに？ どこにある？
圭子 ……孝さんが、持っています。
本多 あいつが？ あいつが肌身離さず持つていてくれたか、じゃあ安心だ（笑）……さ、もういいだろう。

本多、良太に銃を返すよう手を出す。
良太、弾を抜き取ろうとするが、装

填されていない。

良太　　ない……。　

本多、銃をひったくる。

本多　　……殺す気なんてなかった。脅かしてやるだけのつもりだった。

伊藤　　いいわけだ。あんたは人殺しだ。

本多　　そうだな、いいわけかもしれない。

本多　　本多さん。あなたはそれでもこの村の。

本多　　すべてこの村を守るためだ。

本多　　信じられん。

本多　　そうか、所詮俺もよそ者だものな。お

国替えからの新参者だ（笑）。

本多　　……動かしますよ。

本多　　何だと？

本多　　観覧車を。

本多　　おまえが？

本多　　警察がやらないのなら、私がやる。

本多　　なぜだ？

本多　　……。

本多　　動くものか。たとえ電気がきても。

本多　　やってみます。

本多　　今の立場を失うことになるぞ。

本多　　未練はない。

本多　　それだけじゃない。何もかもだ。

本多　　そうですね。

本多　　名主様の意地か？

本多　　くだらない。

本多　　……勝手にしろ。

本多、退場。

良太　　（伊藤に）いいんですか？

伊藤　　逃げはしないさ。

良太　　そうですね。

伊藤　　助役……。

本多　　まったく、あんたらのおかげで。めち

やくちやだ。

聡美 圭子さん。
圭子 はい。
聡美 兄から私のこと……。
圭子 はい。
聡美 腹違いの兄妹だったことも。私が兄の
圭子 ことを慕っていたことも。私が兄の
く私がそう感じただけでは、彼が言ったのではな
に書いてしまったのは、彼がいなくなつた
のに、あなたが現れなかったことへの苛立
ちがあつたのかもしれませんが。
聡美 ……。
伊藤 この人は兄さんがここで失踪したとは
圭子 伝えられていなかった。
圭子 もしかして、このオペラが話題になれ
聡美 ば、あなたが来てくれるのではと。
聡美 ……。

突然、一発の銃声。
暗転。

6

何も置かれていない舞台に幸子と
良太が立つ。

幸子（客席に向かって）人口八百人の私の村
には観覧車があります。村には不釣り合いな
巨大な観覧車も今はただの鉄のオブジェ、
鉄の廃棄物、鉄屑の塔です。リゾートもテ
ーマパークもどうでもよかったけど、観覧
車には乗ってみたかった。てっぺんまでの
ぼつたら、何が見えるんだろう。遠くの町、
都会の高層ビルも見えるかもしれない：
：リゾートがダメになったから、多くの村
人が以前と同じように都会に働きにいき
ます。いいことなんて何もないのに、ただ
傷つくだけなのに、それでも都会に行くの
です。そして、お盆にも正月にも帰らなく

なります。そうやってどんどん人が減り、いつの日か、村でたった一人になった年寄りが、最後の村人1が、誰にもみとられることなく息をひきとり、村は消えるのです。最後の村人1の今際の台詞は何でしょうか。句読点を入れて何文字でしょうか。

良太 村会議長の本多のじいさんが死にました。自らの手で……助役さんと駐在からの連絡を受け、県警が大勢やってきました。忍者みたいな人が観覧車をのぼって、てっぺんのゴンドラの中に何か見つけたようです。それはおそらく、見つけたかったけれど、本当は見つけたくなかったものなのでしょう……観覧車に電気をつなぐための工事が始まりました。圭子先生と聡美さんは待っています。身じろぎもせず、観覧車の下でゴンドラが降りてくるのを待っています。ゴンドラには天使の絵が描かれていました。そんなの今まで気がつかなかった。天使の顔はもうボロボロでした。

幸子 朝日村……威勢のいいのは名前だけで、ここは愚かで意気地のない人間ばかり住む、のどかな、自然だけがとりえの村です。年々さびれていき、まるで時化の海を漂う小船のように哀れです。一度大きな波がきたら、たちまち沈んでしまうのでしょうか。そんな頼りない村なのに、私が気づかないだけで、私が知らないところで、想像もつけない様々な思惑や欲望が渦巻いている。恨みや憎しみが染み出ている。そして抗うことさえできないほど大きな、大きな力でしめつけられ、傷つけられている。今まで、これからも、たぶんずっと……明るい未来など望めそうもない村です。それでも、分校の教室に張られていた絵のように、村のみんなが輪になって、一つになつて支えあっていかなければしょうがないんです。残ってる者たちが全員主役になって、愛し合って、夜這いでも何でもして、命を明日に伝えていかなければ……。

突然、ギギッと、耳をつんざくような凄まじい金属音が聞こえる。背景に巨大観覧車のシルエットが映る。動く。二人、見上げる。

幸子 あっ！

ギリギリ、ギーッ。以下連続して。

良太 動いた、観覧車が動いた！

幸子 回ってる！回ってるよ！ 明りが、

きれい！：：：なんてきれい！：：。

良太 すげえなあ。

幸子 ：：：ゴンドラが。

良太 ：：：。

幸子 ゴンドラが降りてくる。

良太 ああ。

幸子 良太：：：怖いよ。

良太 俺も：：：。

幸子 怖い。

良太、幸子の肩を抱く。

幸子（良太から離れて）あ、村のみんなだ！

良太 ほんとだ。集まってきたやがったな：：：

ありや耕平だ。俊男もいる。安子も。

幸子 本家の義雄さんも。

良太 幸子のとこのばあちゃんも：：：口あけ

て見上げてら。

幸子 ばあちゃんたら：：：。

良太 あ：：：。

幸子 どうした？

良太 あの絵だ。分校に張ってあった、子供の

描いた：：：まるであの絵みたいだ。

観覧車が回る音、一段と大きく。

了